

K-568

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第75集

大浦 B 遺跡発掘調査報告書

2001

米沢市教育委員会

大浦 B 遺跡発掘調査報告書

2001

米沢市教育委員会

序 文

本報告書は、米沢市教育委員会が平成 12 年度に文化庁の補助を受けて実施した「大浦遺跡B遺跡発掘調査」の結果をまとめたものです。

本遺跡付近には、大浦遺跡の A～D の遺跡群があり、奈良時代における官衙跡「置賜郡衙」の有力な候補地と考えられ、当教育委員会では、平成元年から国庫補助を受けて、平成 4 年度までの 4 カ年にわたり確認調査を実施してきた遺跡であります。

今回の調査区からは、官衙跡に係る遺構、遺物は検出されず、中世から近世、近代の遺構、遺物が発見されました。

最後になりましたが、今回の調査にあたり、御指導、御協力を賜りました文化庁、山形県文化財課をはじめ地権者各位、地元の皆様に対し、衷心よりお礼申し上げます。

平成 13 年 3 月

米沢市教育委員会

教育長 佐藤 政 一

例 言

- 1 本報告書は、平成12年度に文化庁の国庫補助を得て実施した、個人住宅造成工事に伴う緊急発掘調査である。
- 2 発掘調査は、米沢市教育委員会が実施したものである。
- 3 調査期間は、平成12年6月5日～同年7月21日
- 4 調査体制
調査総括 鈴木 たみ子 (文化課長)
調査担当 手塚 孝 (文化課文化財係主任)
調査主任 月山 隆弘 (文化課文化財係主任)
調査補助員 中村 潤 水科 友恵
調査参加者 伊藤 博美 井上 吉栄 江袋 吉男 遠藤 庄四郎
加藤 美貴子 上村 修蔵 桑原 あゆみ 小嶋 鍛
佐藤 秀子 色摩 三郎 清水 弘文 高橋 宏夫
高橋 正子 永井 庄田 長沢 朋人 吉田 喜代志
渡部 明美
事務局長 小林 伸一 (文化課長補佐兼文化財係長)
事務局 渡辺 紘子 (文化課文化財係主査)
菊地 政信 (文化課文化財係主任)
調査指導 文化庁 山形県教育庁文化財課
調査協力 野村 隆男
- 5 挿図縮尺は、各図にスケールを示したが、スケールを示していないものは、上部が磁北である。遺構平面図の方位記号は真北に統一した。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号及び遺構等の図化は「米沢市埋蔵文化財調査報告第15集」に準ずる。
- 7 出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室に一括保管している。
- 8 本書の作成は月山隆弘が行い、菊地政信が補佐し、全体については手塚 孝が総括した。

本文目次

序 文	
例 言	
1 遺跡の概要	1
2 調査の経過	1
3 検出遺構	4
4 出土遺物	14
5 ま と め	14

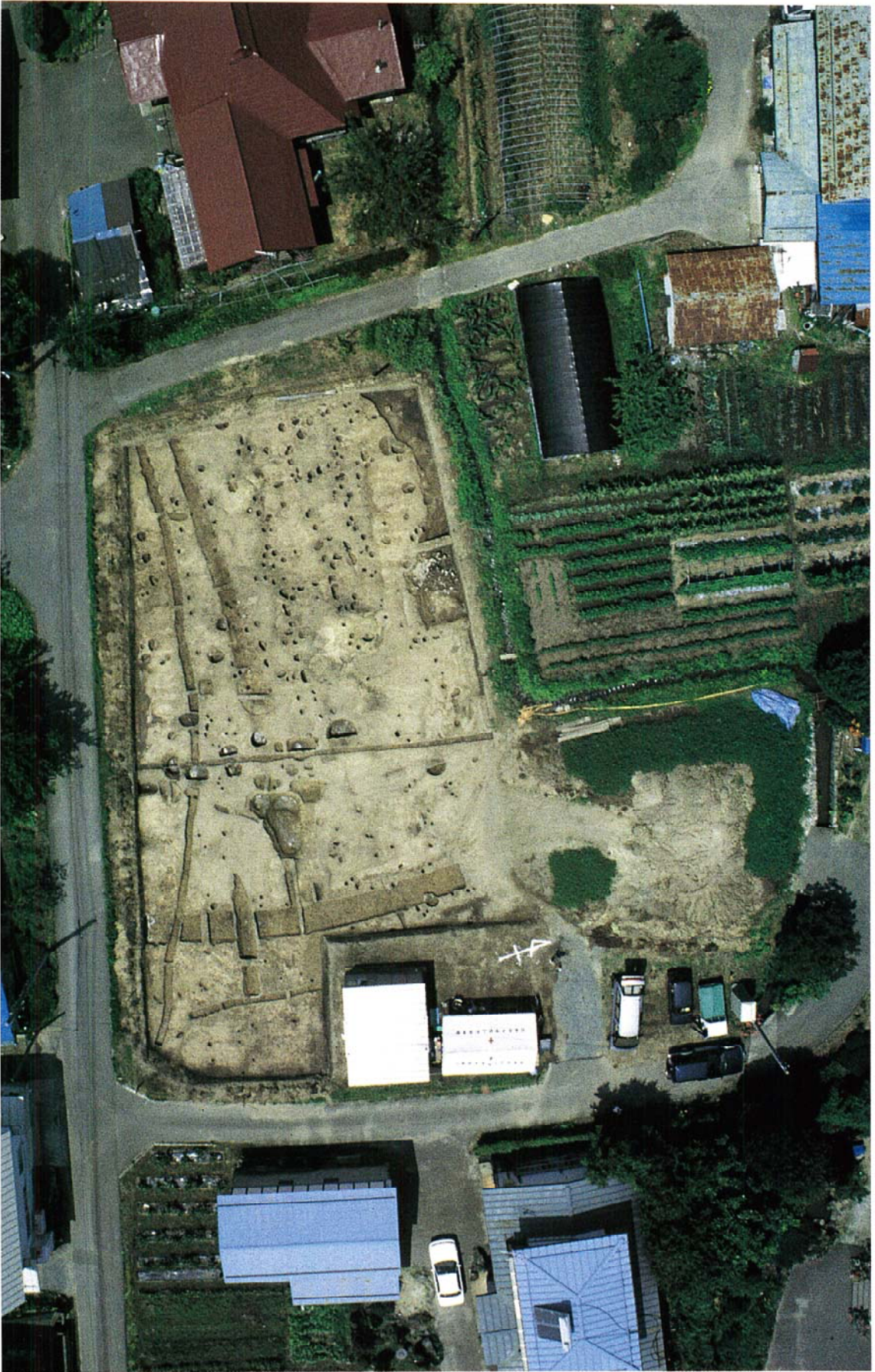
挿 図 目 次

第1図 大浦B遺跡位置図	2
第2図 調査区位置図	3
第3図 遺構平・断面図(基本層序, KY 21・26)	7
第4図 遺構平・断面図(DY 39・43, KY 27)	8
第5図 遺構平・断面図(DY 57, KY 28)	9
第6図 遺構平・断面図(DY 35, DN 63, KY 29)	10
第7図 遺構平・断面図 (DY 33・38・41・64・17, DN 61, VY 31・42・62・65)	11
第8図 河川跡(SN 23出土土器), 土壌(DY 40)平・断面図	12
第9図 遺構平・断面図(DY 32・KY 21・22)	13
第10図 出土遺物実測図(1)	17
第11図 出土遺物実測図(2)	18
第12図 出土遺物実測図(3)	19
第13図 出土遺物実測図(4)	20
第14図 出土遺物実測図(5)	21
第15図 出土遺物実測図(6)	22
第16図 出土遺物実測図(7)	23
第17図 出土遺物実測図(8)	24
第18図 出土遺物実測図(9)	25
第19図 出土遺物実測図(10)	26
第20図 出土遺物実測図(11)	27
第21図 出土遺物実測図(12)	28
第22図 出土遺物実測図(13)	29
第23図 出土遺物実測図(14)	30

第24図	出土遺物実測図(15)	31
第25図	出土遺物実測図(16)	32
第26図	出土遺物実測図(17)	33

図 版 目 次

図版 1	大浦 B 遺跡全景	図版 2	大浦 B 遺跡検出遺構
図版 3	大浦 B 遺跡検出遺構	図版 4	大浦 B 遺跡検出遺構
図版 5	大浦 B 遺跡検出遺構	図版 6	大浦 B 遺跡検出遺構
図版 7	大浦 B 遺跡検出遺構	図版 8	大浦 B 遺跡検出遺構
図版 9	大浦 B 遺跡近景	図版10	大浦 B 遺跡出土遺物(1)
図版11	大浦 B 遺跡出土遺物(2)	図版12	大浦 B 遺跡出土遺物(3)
図版13	大浦 B 遺跡出土遺物(4)	図版14	大浦 B 遺跡出土遺物(5)
図版15	大浦 B 遺跡出土遺物(6)	図版16	大浦 B 遺跡出土遺物(7)
図版17	大浦 B 遺跡出土遺物(8)	図版18	大浦 B 遺跡出土遺物(9)
図版19	大浦 B 遺跡出土遺物(10)	図版20	大浦 B 遺跡出土遺物(11)
図版21	大浦 B 遺跡出土遺物(12)	図版22	大浦 B 遺跡出土遺物(13)
図版23	大浦 B 遺跡出土遺物(14)	図版24	大浦 B 遺跡出土遺物(15)
図版25	大浦 B 遺跡出土遺物(16)	図版26	大浦 B 遺跡出土遺物(17)
図版27	大浦 B 遺跡出土遺物(18)	図版28	大浦 B 遺跡出土遺物(19)



1 遺跡の概要

大浦遺跡は、最上川（松川）と掘立川及び羽黒川の三つの河川が合流する標高 234 ～ 236 m の発達した河岸段丘に位置する。北側には旧河川の名残を示す小川が流れており、本遺跡はこの小川と河岸段丘に挟まれた範囲内に、大浦A～C遺跡（奈良・平安時代）の3遺跡と、小川の対岸を主体に分布している大浦D遺跡（中世）で構成されている。この大浦遺跡群は、昭和59年の大浦遺跡群第1次調査（大浦C遺跡）を初めに、圃場整備・宅地・店舗・駐車場等の開発に伴い過去11回の調査を実施している。これらの調査の中で大浦遺跡群の重要性を決定付けたのが、平成元年の大浦遺跡群の第4次調査（大浦B遺跡第1次調査）である。南門を有した一辺 39 m × 46 m の方形に区画する柵列内に整然と配置された奈良時代の建物群（21棟）と漆紙文書が検出されたことである。これらの建物群は8世紀中葉～同後葉期と、8世紀後葉期～同末葉期の二時期にわたって存在していたものと判断されてる。また、漆紙文書は平川 南教授（国立歴史民俗博物館）の解説により、延暦23年の具注暦（こよみ）と判断されている。このことから、本遺跡群は、奈良時代における官衙跡「置賜郡衙」の有力な候補地と判断され、米沢市教育委員会では文化庁と山形県教育委員会（文化財課）の指導を得て、平成元年から国庫補助の採択を受けて、平成4年度までの4カ年にわたり確認調査を実施している。

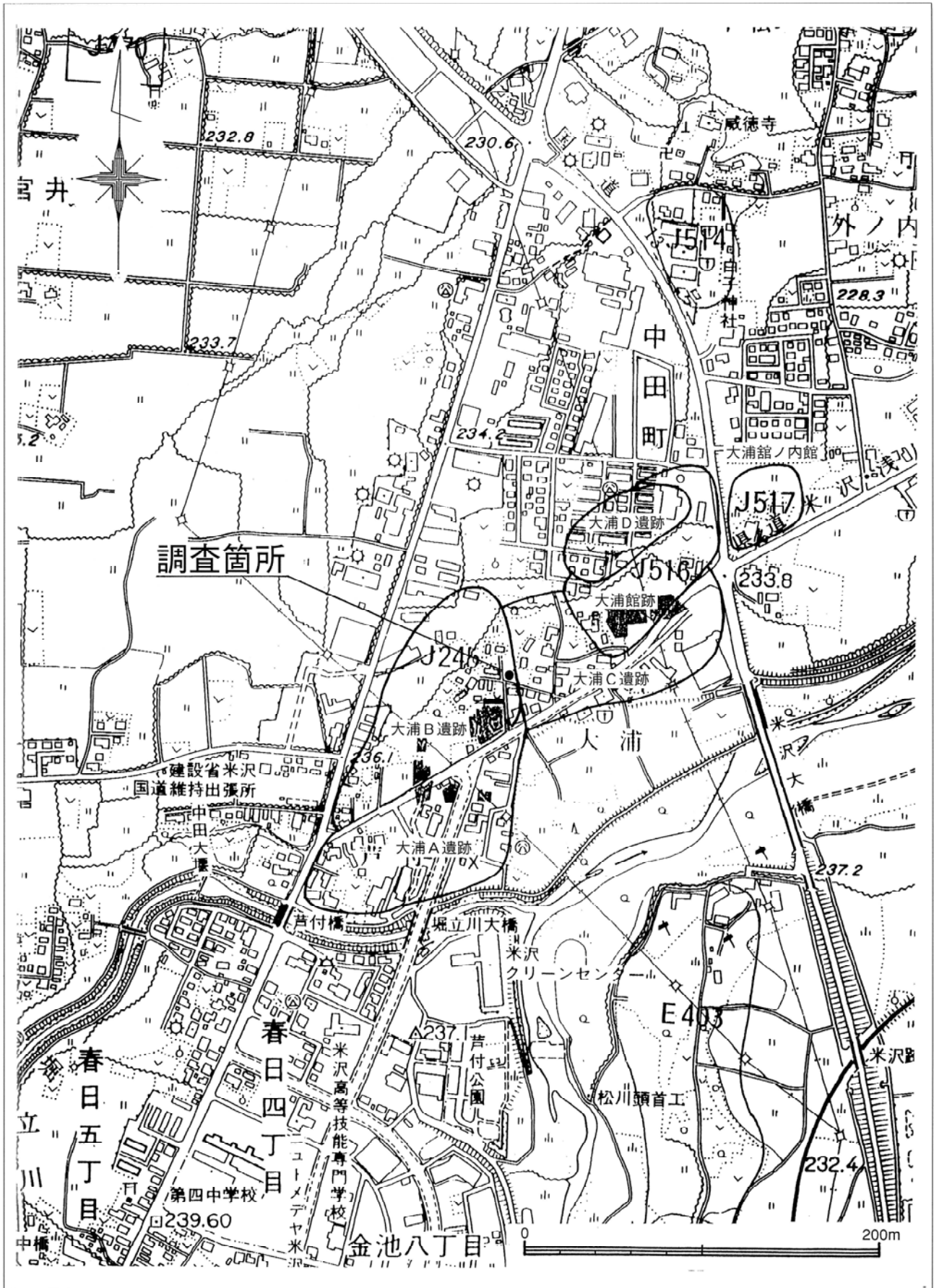
今回の調査区は当地域の北側 50 m にあたり、奈良・平安時代の遺跡（官衙跡）に係る遺跡と推測していたが、当該地は大浦Cや大浦館跡と隣接することによるものか、検出された遺構や遺物から判断すると、中世期から近世、近代にかけての遺跡であることが判明した。

2 調査の経過

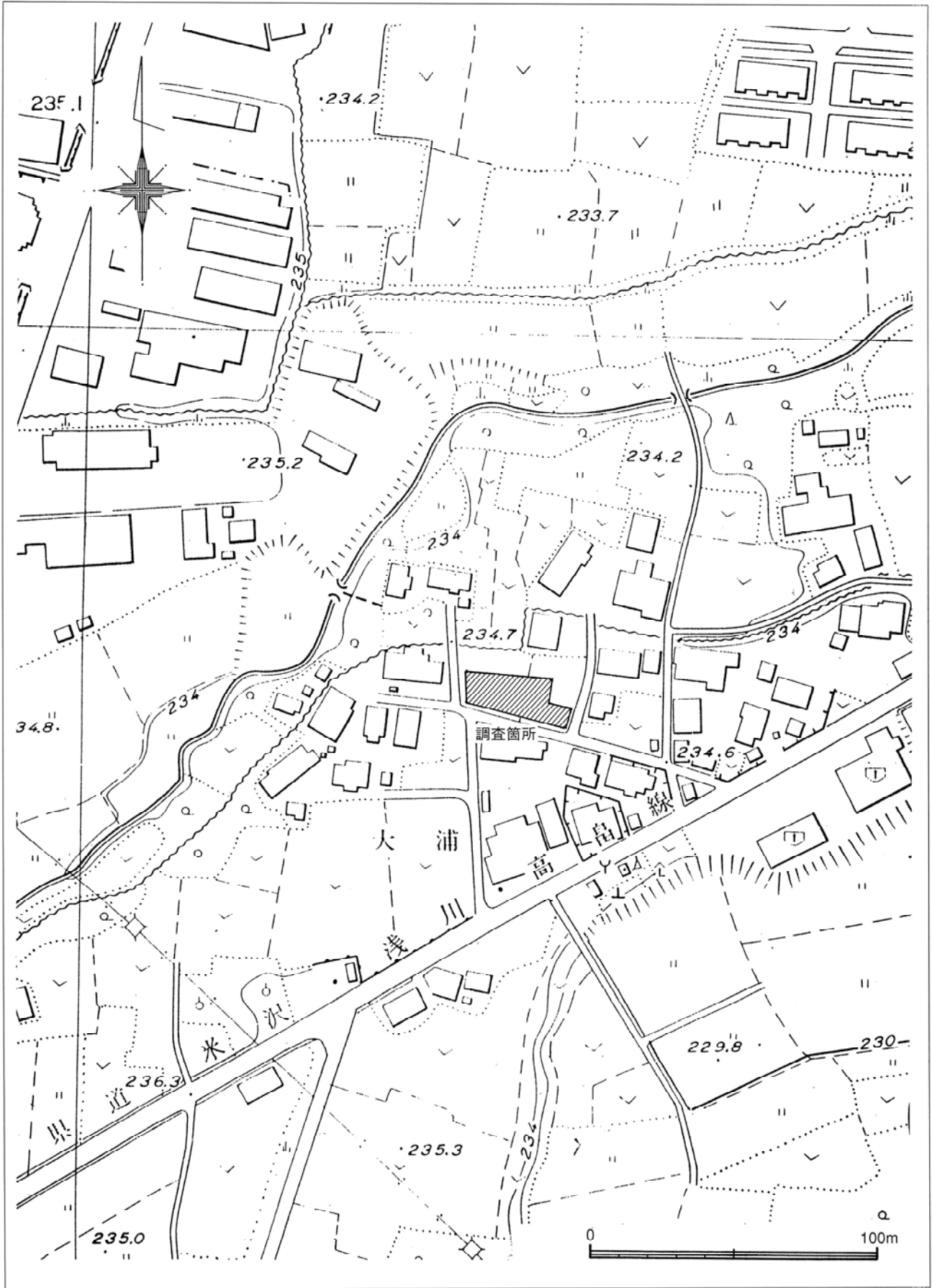
今回の調査は、個人の宅地造成に伴う緊急発掘調査であり、大浦遺跡群では第15次調査となり、大浦B遺跡では第5次調査にあたる。

開発予定地に調査区範囲を設定するため、試掘調査を平成13年6月5日に実施した。開発予定地範囲（約 1,200 m²）に、幅 2 m × 長さ 30 m のトレンチを東西方向に3本、2 m × 10 m のトレンチを南北に1本の計4本を設定して実施した結果、表土下 50 ～ 60 cm にて茶褐色シルト層（地山層）が確認された。しかし北側は既存の建物によって攪乱が著しかった。開発予定地の北側を除く3本のトレンチ内から柱穴・土壙・溝跡等の遺構や、遺物が確認された。このことから、開発者と本市教育委員会が協議した結果、開発予定地の北側部分に当たる空白地を除く、約 674 m² 範囲の発掘調査を実施するに至った。

発掘調査に先立って6月6日に鉋入式を開始し、同日に重機においての表土剥離を終了した。また、同日器材を搬入した。6月7日から面整理や遺構確認のための精査を実施した。この精査によって、多数の遺構のプランが検出された。しかし、調査区中央部の南北方向に水道管が埋設していることから攪乱している部分もあった。6月14日から遺構の掘り下げを実施した結果、奈良・平安時代の遺物は皆無に等しく、中世及びそれ以降の遺物がほとんどであった。7月3日からは遺構の掘り下げと並行して、各遺構の平面図・断面図の作成、適宜写真撮影を行い、7月21日には調査区全体の空中写真撮影を実施し、器材を撤去し現地調査を終了とした。



第1図 大浦B遺跡位置図



第2図 大浦B遺跡調査区位置図

3 検出遺構

今回の調査で確認された遺構には、土壙 17 基、溝跡 6 条、河川跡 1 条、井戸跡 2、桶埋設遺構 4 基、柱穴・不明ピット 291 基がある。これらの全ての遺構は、中世から近世及び近代の属する遺構である。建物跡については、柱穴・ピット等は多数検出されたが、建物を明確に構成するには至らなかった。以下主な遺構について概要を述べる。

【土 壙】

DY 32 「第 9 図 図版 2」

調査区中央部南側で確認された。平面形はほぼ楕円形を呈し、長短径 2.36 ～ 1.85 m、深さ 20 ～ 28 cm を測る。掘り方は緩やかで底面は皿状を有する。覆土は 4 枚に分けられ自然堆積と判断される。出土遺物には壺・鉢・土塼片等がある。

DY 33 「第 7 図 図版 4・6」

調査区東側中央部で確認された。平面形は楕円形を呈し、長短径 (4.1) ～ 2.4 m、深さ 68 ～ 120 cm を測る。掘り方は垂直に近く、底面は東側から中央部まで平坦であるが、西側で一段窪んでいる。北西側底部には直径 50 cm 程の箍が確認された。この箍は、上部でプラン確認はできなかったが当土壙とは関連しないもので、他の遺構と重複しておりその遺構を切っているものと判断される。覆土は 7 枚に分けられ自然堆積と判断される。出土遺物には大皿・鉢・瓶等がある。北西側で D Y 38 及び南側で D Y 37、V Y 65 と重複しておりそれぞれに切られる。

DY 35 「第 6 図」

調査区中央部北側で確認された。平面形は円形を呈し、長短径 1.19 ～ 1.17 m、深さ 36 cm を測る。掘り方は鍋底状を有する。覆土は 2 枚に分けられ自然堆積を示している。遺物の出土は認められない。重複関係は K Y 29 を切る。

DY 38 「第 7 図 図版 4・6」

調査区中央部東側で確認された。平面形は不正楕円形を呈し、長短径 2.11 ～ 1.75 m、深さ 49 cm を測る。掘り方は北東が緩やか南西側が垂直である。覆土は 5 枚に分けられ自然堆積を示している。出土遺物には近世のぐい呑、摺鉢等がある。南側で D Y 33 と重複しており切る。

DY 39 「第 4 図」

調査区北西側で確認された。平面形は不正楕円形を呈し、長短径 105 ～ 86 cm、深さ 20 cm を測る。掘り方は緩やかである。覆土は 4 枚に分けられ自然堆積をなす。遺物の出土はない。

DY 40 「第 8 図」

調査区北西側で確認された。平面形はほぼ楕円形を呈し、北東側が T Y 272 に切られているが確認長短径 (91) cm、深さ 32 cm を測る。掘り方は垂直である。覆土は 3 枚に分けられ自然堆積を示している。遺物の出土はない。

DY 41 「第 7 図 図版 3・4」

調査区中央部で確認された。平面形は円形を呈し、長短径 1.60 ～ 1.56 m、深さ 40 cm を測る。掘り方は鍋底状を有する。覆土は 5 枚に分けられ自然堆積を示す。東側が水道管によって切ら

れている。出土遺物にはツマミ部は欠損しているが須恵器の蓋・鉢等がある。

DY 43「第4図 図版2」

調査区北東側で確認された。平面形は円形を呈し、長短径104～87cmを、深さ39cmを測る。掘り方は鍋状を有する。覆土は4枚に分けられ、F2は焼土である。自然堆積と判断される。上層には焼土と10cm大の礫が6個確認されたことから、土壙を利用した地床炉として機能していたことが窺える。KY27を切っている。自然堆積を示す。遺物の出土はない。

DY 64「第7図」

調査区中央部南側で確認された。平面形は楕円形を呈し、長短径1.53～1.39m、深さ19cmを測る。掘り方は浅い鍋底状を有する。覆土は2枚に分けられ自然堆積を示している。遺物の出土はない。

【桶埋設遺構】

VY 31「第7図」

調査区中央部南側で確認された。平面形は楕円形を呈し、長短径1.19～87cm、深さ32cmを測る。掘り方の中程に埋設している、楕円形の桶底板の長径が70cmを有する。覆土は2枚に分けられ自然堆積を示している。重複関係はKY21を切る。遺物の出土はない。

VY 42「第7図 図版5」

調査区中央部北側で確認された。平面形は円形を呈し、長短径1.19～1.17m、深さ36cmを測る。水道管理設に切られているが、中央部に箍が確認された。掘り方は鍋状を有する。覆土は2枚に分けられ自然堆積を示す。中央部が水道管によって切られている。出土遺物は壺の頸部と摺鉢等がある。

VY 62「第7図」

調査区中央部南側で確認された。平面形はほぼ円形を呈し、長短径1.51～1.40m、深さ63cmを測る。遺構中央の上部が水道管理設に切られているが、中央部に箍が確認された。掘り方は垂直である。覆土は3枚に分けられ自然堆積を示している。遺物の出土はない。

【井戸跡】

DN 61「第7図」

調査区中央部南側で確認された井戸跡である。平面形が楕円形を呈し、長短径(120)～96cm、深さ79cmを測る小規模な施設である。他の土壙と掘り方が異なり、垂直に掘り込んでいることや、底部に箍状の木枠が設置されていることから井戸跡と判断した。覆土は4枚に分けられ自然堆積を示す。東側部分がKY21に若干切られている。遺物の出土はない。

DN 63「第6図 図版3」

調査区中央部東側で確認された。平面形は円形を呈し、長短径1.83～(1.65)m、深さ81cmを測る。東側部分が水道管理設に切られており、掘り方はほぼ垂直である。覆土は7枚に分けられ自然堆積を示している。遺物の出土はない。

【溝 跡】

KY 21「第7・9図 図版1」

調査区南側で東西方向に確認された。形状は中央部で緩やかに蛇行する。幅42～60cm、長さ約37m確認された。深さは12～18cmと浅い。中央部でVY 31・DN 61に切られ、東側でKY 27を切る。覆土は1層であり自然堆積をなす。遺物の出土はない。

KY 22「第9図 図版1」

調査区南西側のKY 21の直ぐ北側に並行して、東西方向に確認された。形状はほぼ一直線である。幅65～99cm、東側でDY 32に切られるが長さは約14m確認された。深さ18cm前後を測る。TY 177を切る。覆土は1枚であり自然堆積を示す。出土遺物は須恵器の坏1点、陶磁器片が数点がある。

KY 25「第5図 図版1」

調査区東側の南北方向に確認された。形状は中央部で緩やかに蛇行する。幅42～60cm、北側は調査区外であるが長さは8.5m確認された。深さ15～19cmを測る。覆土は3層であり自然堆積を示している。重複関係は認めらず、出土遺物はない。

KY 27「第4・5図 図版1」

調査区東側の南北方向に確認された。形状はほぼ一直線である。幅1.82～2.18m、南側と北側は調査区外であるが長さ約21m確認された。深さ24～35cmを測る。北側でDY 43、南側でKY 21・28に切られる。覆土は1層であり自然堆積を示している。出土遺物はない。

KY 28「第3・5図 図版1」

調査区東側の東西方向に確認された。形状は中央部から西側にかけて細くなりやがて切れる。幅1.0～1.15m、長さ8.5m、最深で45cmを測る。覆土は1層であり自然堆積を示す。重複関係はKY 27を切り、KY 25に切られる。出土遺物はない。

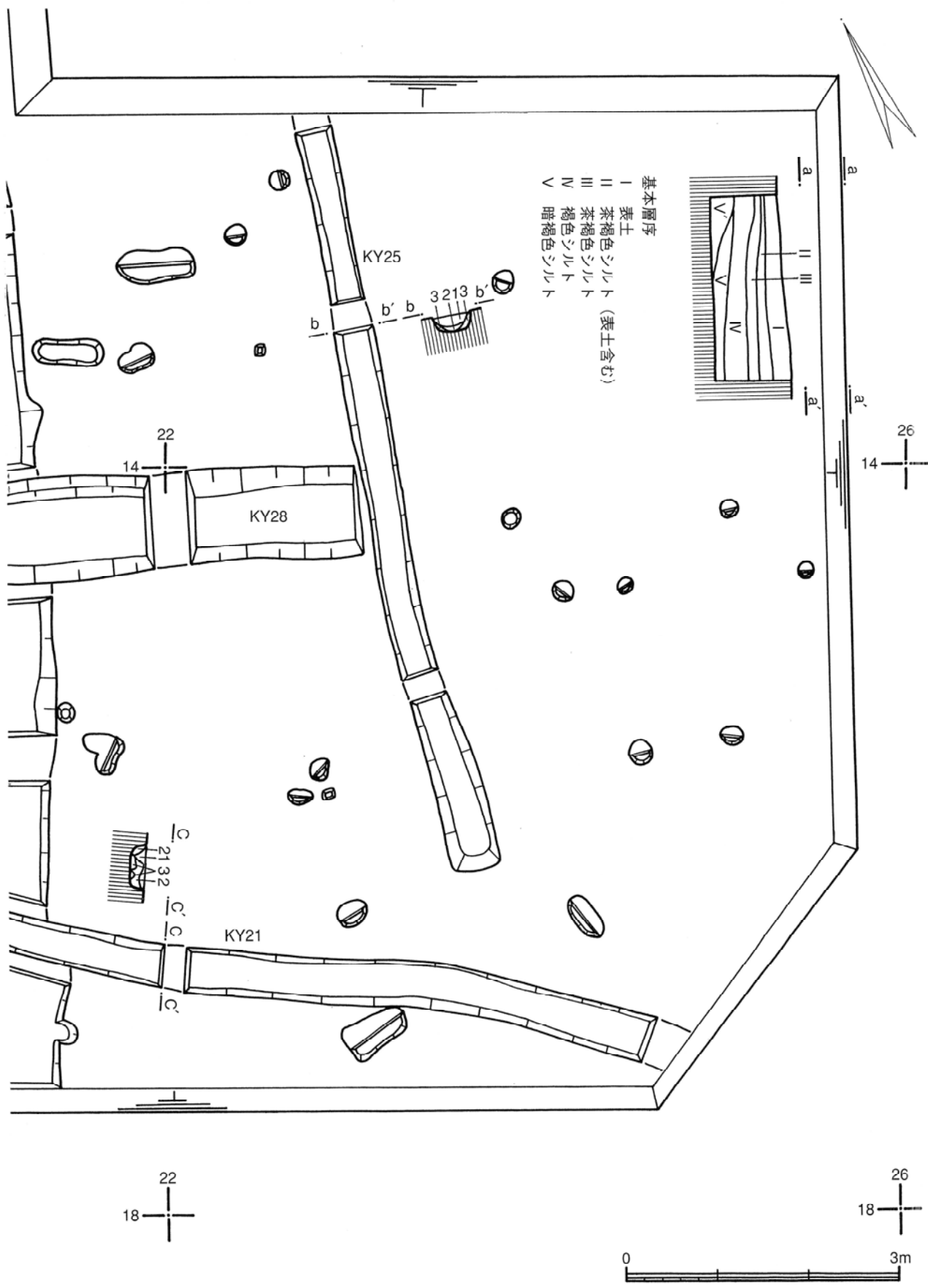
KY 29「第6図」

調査区北東側の南北方向に確認された。形状はほぼ一直線である。幅20～30cm、北側は調査区外であるが長さ約6m確認された。深さ10cm前後と浅い。北側でDY 35に切られる。覆土は1層であり自然堆積を示す。出土遺物はない。

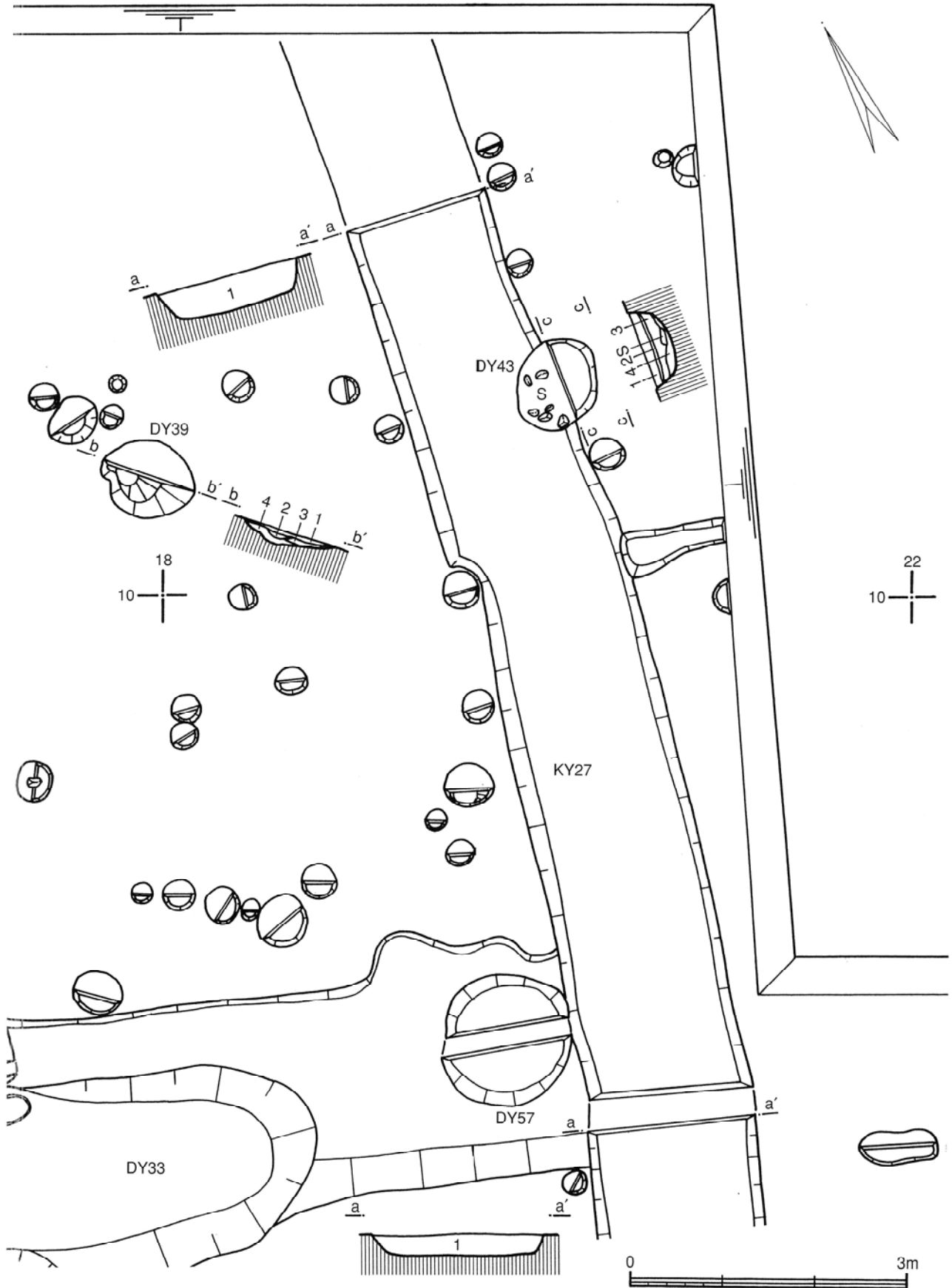
【河川跡】

SN 23「第8図 図版7・8」

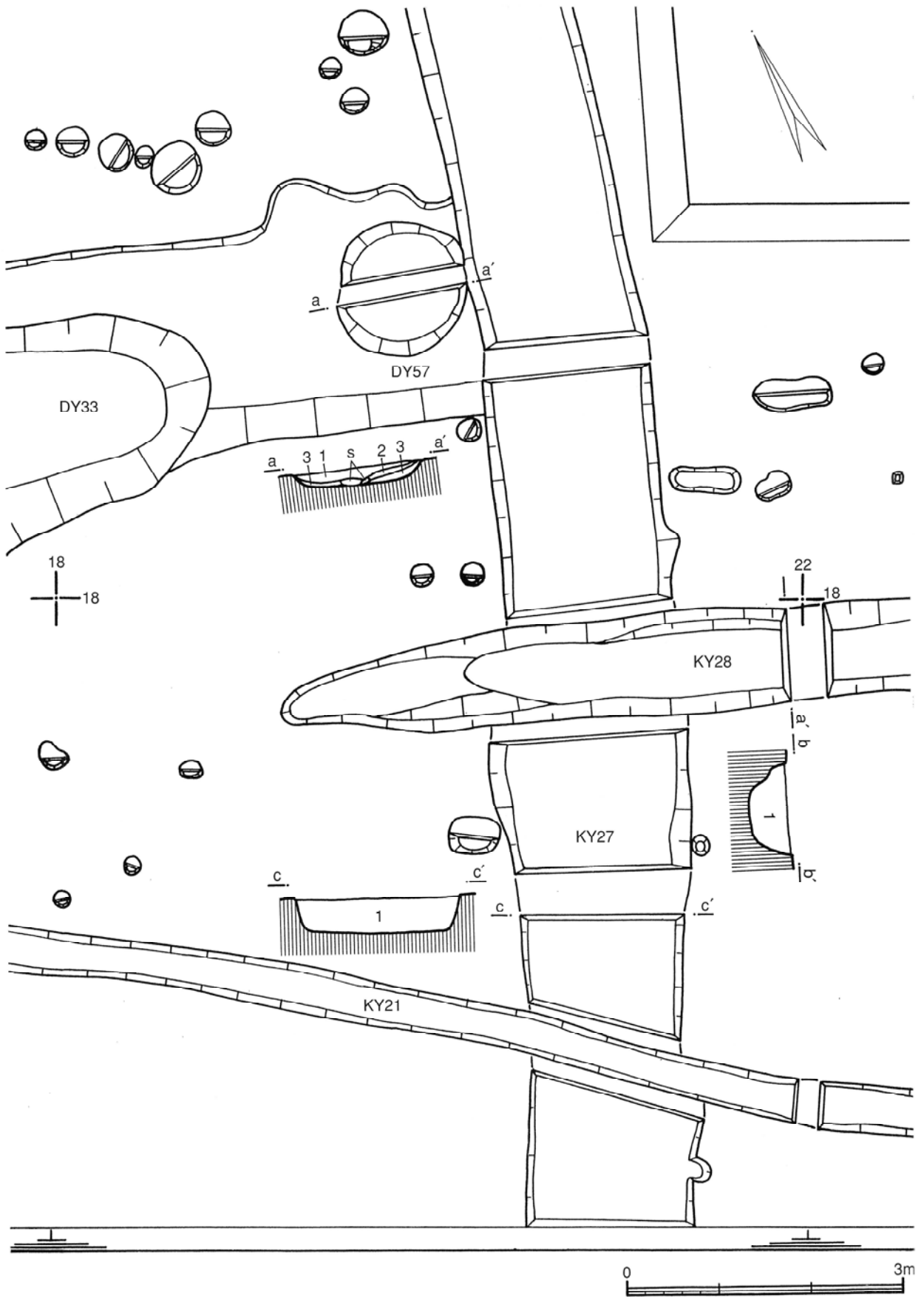
調査区北西隅の東西方向に確認された。10－10G付近で北側にほぼ直角に曲がるコーナー部が確認され、形状は若干蛇行している。北側が調査区外であることから実際の規模は不明であるが、幅(80)～(250)cm、長さ約11mを確認している。最深99cmを測る。東側のコーナー部付近では、太さ10cm前後の丸太及び丸太材を半裁した杭が、打ち込まれた状態で50本程確認された。これらの杭は、土止め用もしくは足場を構築するためのものと判断される。また付近には10～30cm程度の河原石も数十個確認された。出土遺物には、茶碗、摺鉢、陶磁器の雑器類が多い。中には脚が付く青磁の香炉が出土している。このことからこの河川跡は、流し場状に構築したものと判断される。覆土は5枚であり自然堆積を示している。



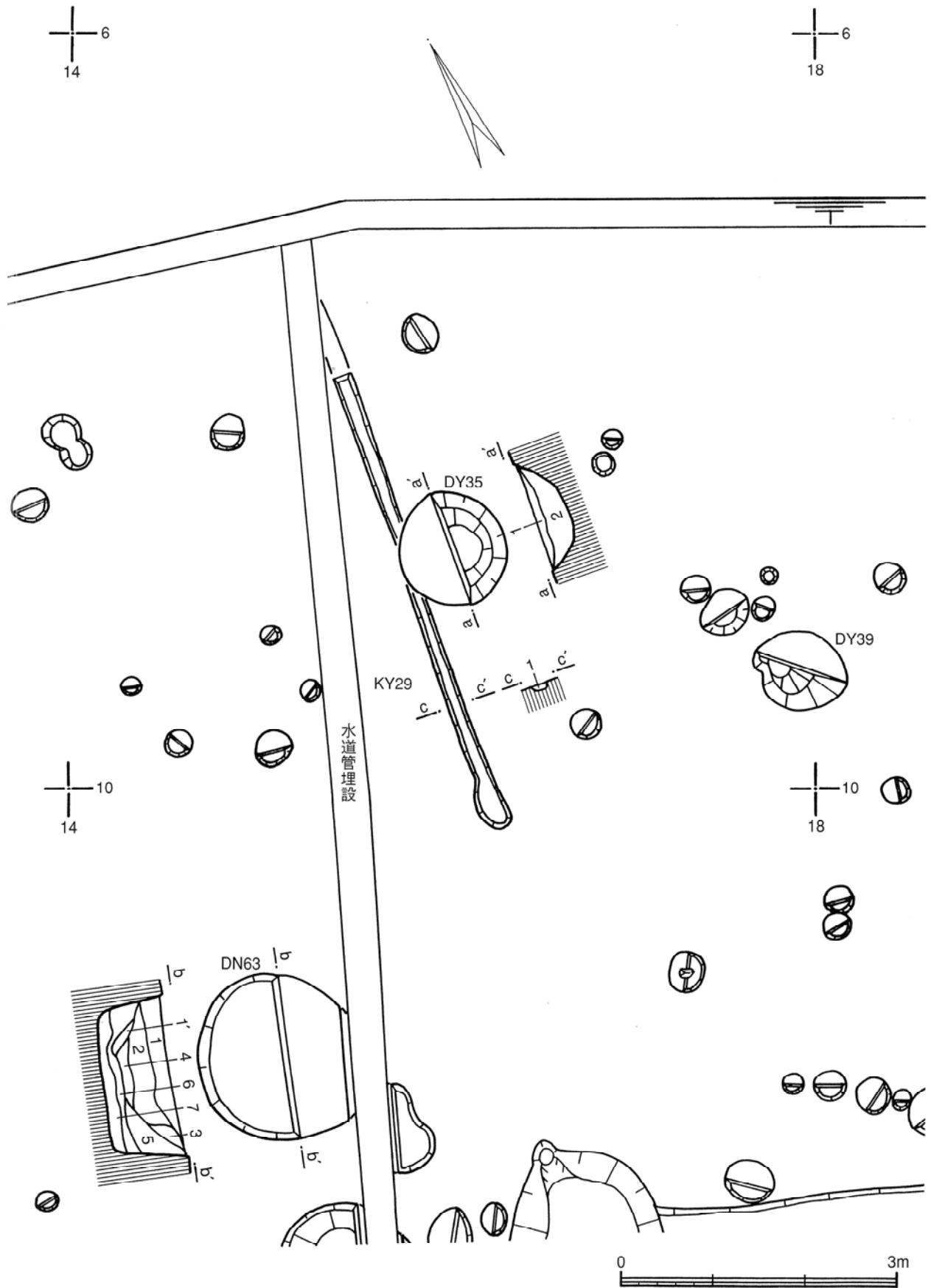
第3図 遺構平・断面図 (基本層序, KY21・25)



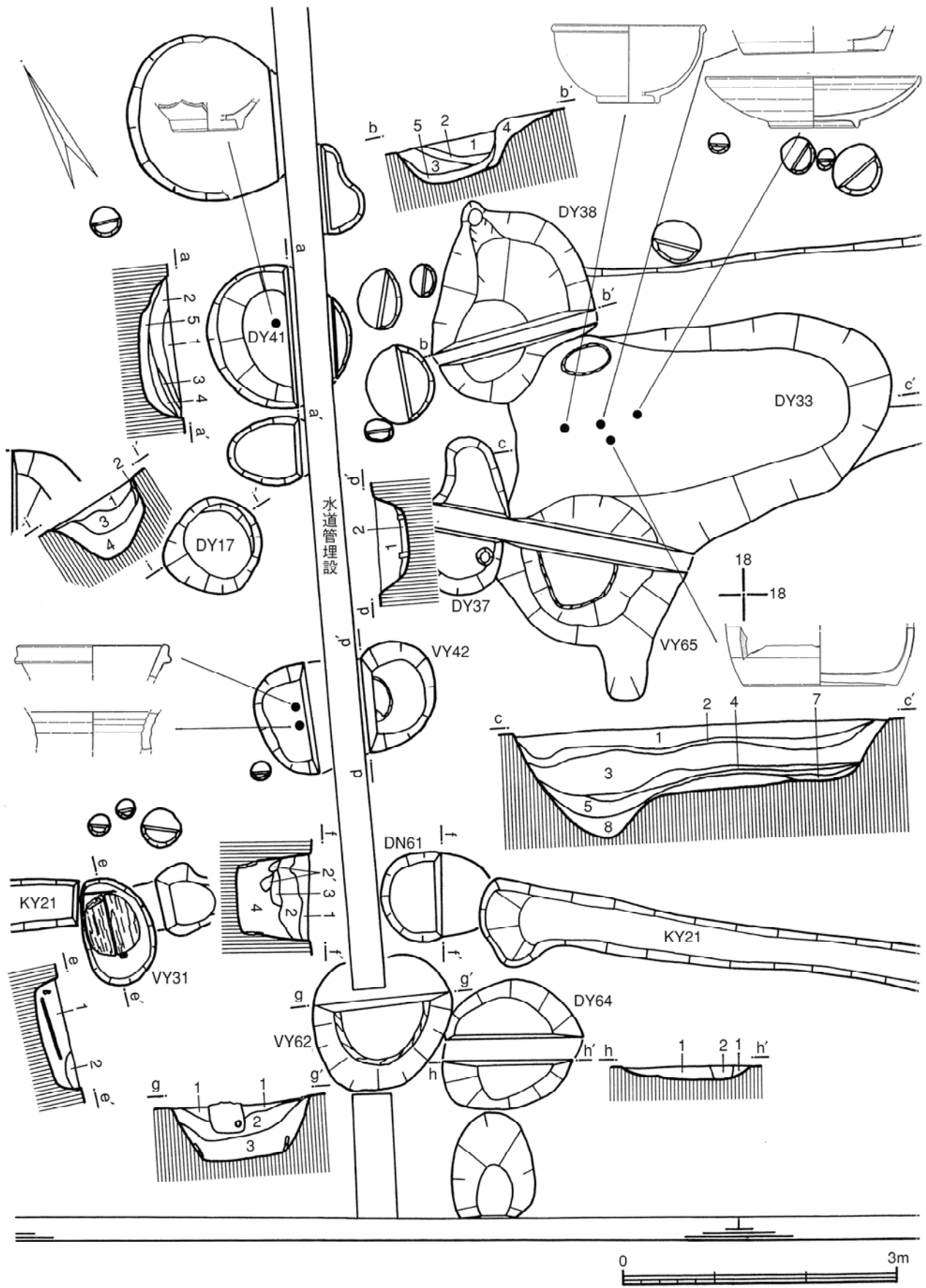
第4図 遺構平・断面図 (DY39・43, KY27)



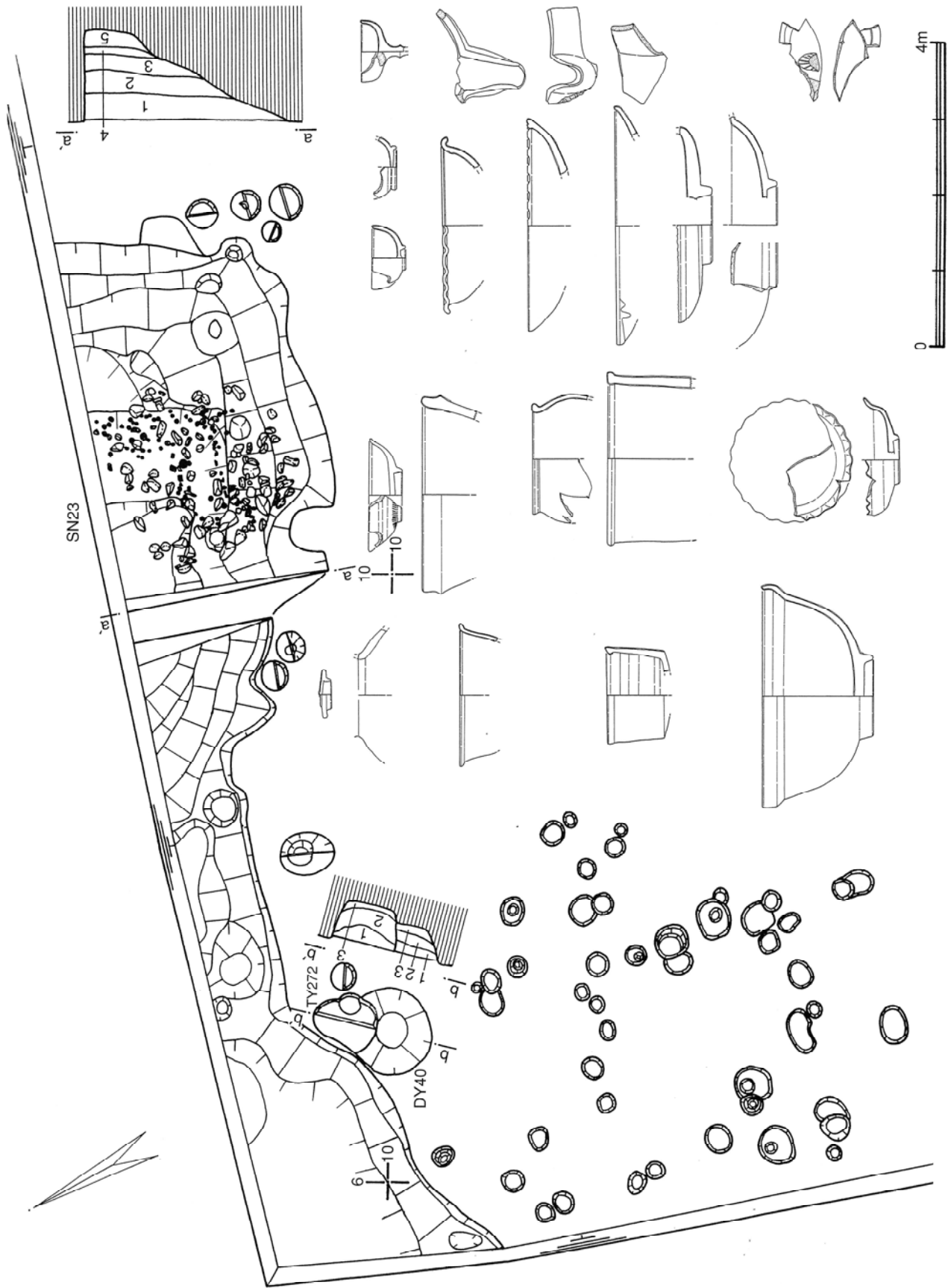
第5図 遺構平・断面図 (DY57, KY28)



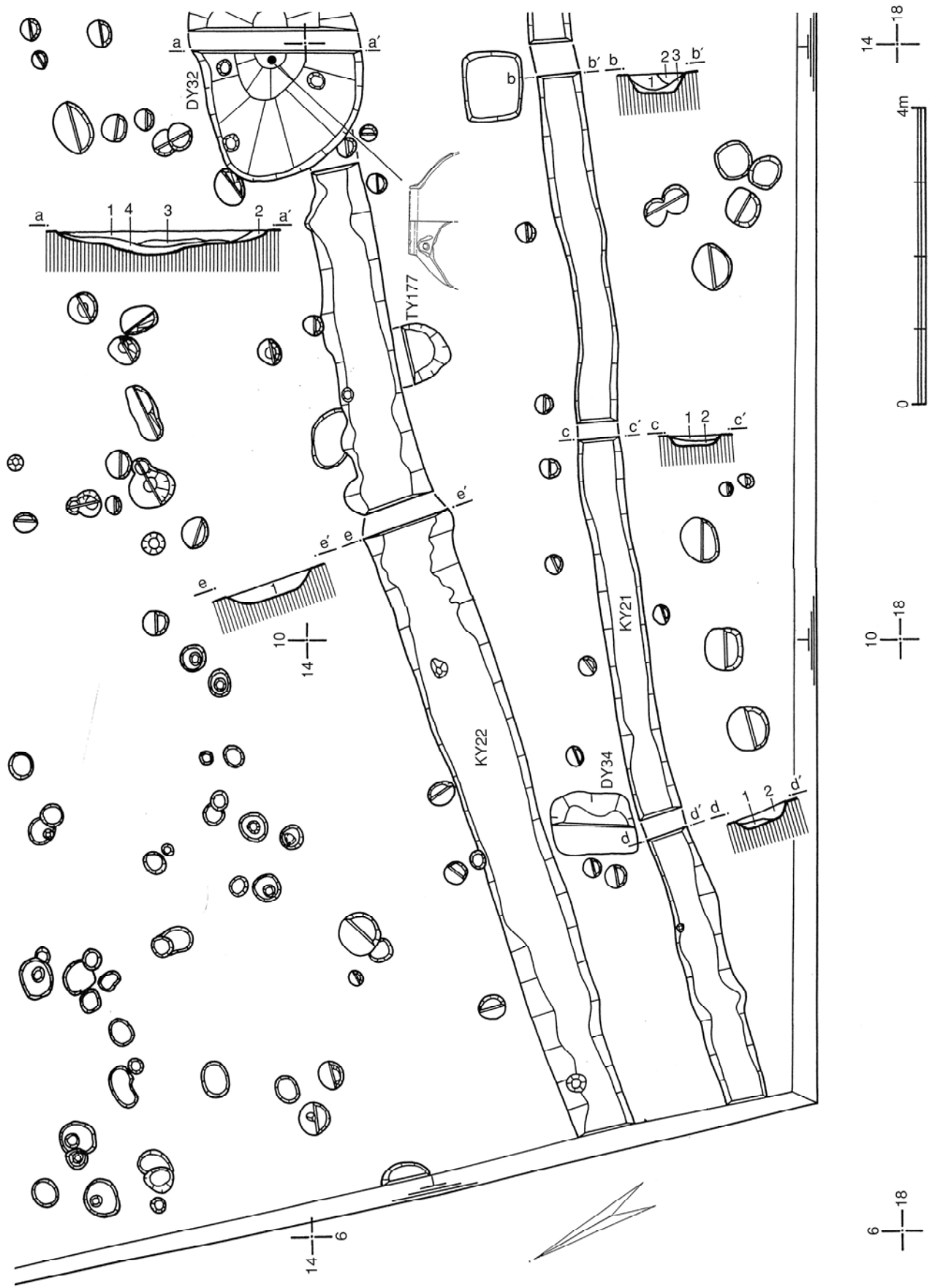
第6図 遺構平・断面図 (DY35, DN63, KY29)



第7図 遺構平・断面図 (DY33・38・41・64・17, DN61, VY31・42・62・65)



第8図 河川跡 (SN23 出土土器), 土壇 (DY40) 平・断面図



第9図 遺構平・断面図 (DY32, KY21・22)

4 出土遺物

今回の調査で出土した遺物には、須恵器片（坏・蓋・甕）、かわらけ、陶磁器類、ガラス製品、石製品と鉄製品が若干出土している。これらの遺物の大半は、遺構内出土によるものであり、総計 991 点を数え、整理箱にすると約 10 箱分が出土している。

遺物は大別すると A 群（須恵器）7 点、B 群（かわらけ）19 点、C 群（土師質土器）33 点、D 群（摺鉢）55 点、E 群（陶磁器類）785 点、F 群（青磁）2 点、G 群（その他の遺物）90 点となる。出土した主な遺物（実測図）については、表-1～3 を参照されたい。

● A 群土器「第 10 図 1～4、図版 10・11」

須恵器を一括した。須恵器類は 7 点出土しているが、実測図を作成できたのは、坏・蓋・甕片の各 1 点であり、甕は拓影図とした。1 は蓋でツマミと中次ぎ部が欠損している。2 と 3 は坏で、2 は口径 14.5 cm を測る。3 は底部片であり、底辺部にケズリを施し、切離しは緩やかな回転の糸切りである。4 は甕胴部片で、外面は板状の叩き目、内面は半同心円の押え目を施している。4 点ともに大浦 B 遺跡の出土遺物と対比すると 8 世紀末～9 世紀初頭に属するものと判断される。

● B 群土器「第 10 図 5～13、図版 10・11」

かわらけを一括した。19 点出土している。5 は赤褐色を呈する口径 14.5 cm の坏形態を示す。6～13 は口径が 13.1～16.7 cm、器高 3.2～4.1 cm とまちまちであるが、器形としては口唇部に凹みを有し、胴部からはほぼ垂直に立ち上がり底辺部が極端に丸味をもち平坦な底部をなすのを特徴とする。7 の口縁部直下には稜線が明瞭に認められる。6・8・10・13 の底辺部付近には回転ケズリを施している形態もある。この種のかわらけは、米沢市では確認されていない。全体が焦げた痕跡より、ハウロクもしくは火消つぼの蓋として使用した可能性もあるが、ここでは前者を支持したい。かわらけの年代であるが、他の陶磁器と対比した場合、18 世紀以降の年代を想定せざるを得ない。ただし、多量のかわらけが出土した米沢城の形態とも大きく異なっており、時期の問題と用途も含めて今後の課題と考えている。

● C 群土器「第 10 図 14、図版 10・11」

土師質土器は 33 点出土している。14 は口縁部を「く」字状に外反させたもので、胴部に竹状工具による突刺文を叩き目状に連続施文している。手焙りと推測される。

● D 群土器「第 11 図 15～21・第 12 図 22～28、図版 12～16」

摺鉢は 55 点出土しているが、実測図を作成できたのは 14 点である。ロクロ成形で口縁部に凸帯を有するもので、凸帯を中心として鉛釉を施している。内面は 10～15 本を単位とした摺り目を施している。口縁部直下の凸帯は水平に若干外反するもの、大きく外反させるもの、その中間と 3 種類がある。底部は平坦なものと、高台を施した摺鉢がある。地元成島焼と美濃焼に区分されるが、年代としては、18 世紀後半～19 世紀初頭が妥当とみる。

● E 群土器は、陶磁器類を一括したもので、便宜的に E 1～E 7 の順に細別した。

E 群 1 類「第 13 図 29～36・第 14 図 37、図版 17・18・26」

陶磁器の小皿を一括する。C 29～36 は本郷焼とみられる。内外面ともに灰白色系の釉を施

し、中央に絵殻を施しているのを特徴とする。29～31は5単位の梅花弁状の絵が描かれている。32・33には笹状の絵が描かれている。34は赤褐色を呈し、底面に鳥を記号化したとみられるもので放射状に羽や頭部を表している。

E群2類「第13図38～40・第14図41～45、図版18・19・26」

碗類を一括した。38～39は、口辺部に明瞭な稜線を有する平碗で、全面に細かな貫入が入り、釉は灰緑色を呈しているもので、相馬焼とみられる。40は、茶呑茶碗で胴部に漢字4文字、裏側は欠損しているが、絵を書き込んでいる。41は灰色、42は灰白色を呈するぐい呑である。45は、内面から口縁部に灰緑色を呈し、外面には、筆書きしているぐい呑である。

E群3類「第14図46・第15図47～57、図版16・21・22・23・24～26」

46は、口縁部のみであるが、内外面は褐色を呈している。47・48は大型の鉢で、灰白色系の釉を施している、産地は不明。49は口縁部が欠損しているが、外面に緑灰色の釉、中面には灰乳白色の釉を呈した皿である。50は小型の鉢で、外面は茶褐色、内面は青白色を呈しており、口縁内部には連続した押跡を施している。51・52は小型の鉢で、双方とも口縁部に花卉を施しており、51は茶褐色系、52は灰白色系の釉を呈している。産地は不明。53は内外面に緑褐色を呈しており内面に絵を描いている。54は内外面ともに灰褐色系を呈しており、内面の口縁部に青緑色の釉を帯状に施している。55は外面が褐色系、内面が青灰色を呈しており、成島焼と考える。56・57は片口で、56は内面に白色釉、外面には茶緑色釉を施し、57は鉄釉色した茶褐色釉を呈する片口である。

E群4類「第15図70、第16図65、第17図58～64・69・71、図版21・22」

壺・甕類を一括した。58～60は壺の口縁部片で、口縁部直下から大きく外反する。61は灰緑色の釉を施した壺の頸部片である。62～64は壺の高台付の底部片で、62・64は内外面に褐色の釉、63の内面には黒灰色の釉を呈している。

65～68は、キッタテの底部片である。それぞれ内外面に褐色の釉を呈している。66は底部から大きく内湾する。69は、茶褐色の釉に口縁部から乳白色の釉が流れている特徴から、成島焼の杓たての口縁部片である。71は、釉を施していないので鞘の口縁部片と考えられる。

E群5類「第14図72～74、図版26」

仏器を一括した。72・73は、神仏に供える仏飯具で、72の釉は灰緑色をしており、極細の貫入が入る。73は白色である。74は仏花器で、全体は灰褐色で上部は鉄釉で覆う。胴上部が細くほみ、下部が膨らみをもち、底辺部に段を有し底部の裾が広がるのを特徴としている。胴上部は欠損しているが、2単位の取手が付く。底部は欠損し穿孔している。

E群6類は染め付けを一括したもので、碗類と皿類に区分した。

E群6¹類「第18図～第20図、図版19・20」

1～7は底部が肉厚な形態で、古伊万里の染め付け碗である。1と2は網目状、3～5は草花が描かれている。8～17は、草花・風景・記号等が描かれている伊万里系統の碗であるが、概ね18世紀後半～19世紀前半のものであろう。

E群6²類「第23図～第26図、図版27・28」

18・20・21・24 は中型の皿で、内外面ともに記号化された文様や羊歯状・草花・風景文様を横位に展開している伊万里の染め付け皿である。22 は風景文様を展開した平清水焼とみられる染め付け皿。19 は多角形を有する花絵殻の皿。23 は高台の小さい小皿。25～26 は、蓮弁状の口辺を有する小皿の仲間で、25・26 は蛸唐草文を展開するもので、27 は松と舟を中心とした海辺文様が描かれており、伊万里もしくは、伊万里系統を引く在地窯と推測される。

● **F 群土器**「第 15 図 85・86、図版 16」

青磁を一括した。2 点出土しており、国産か輸入品かは断定できないが、85 の香炉は宗時代の中国製青磁の可能性はある。86 は皿の破片である。

● **G 群土器**「第 14 図 75～78、第 17 図 79・80、図版 21・22」

その他の陶磁器を一括した。75 は、赤褐色を呈する蓋であり、中次ぎ部分が大きく内湾している。用途は不明。76 は、赤褐色を呈する小型の花瓶（一輪指し）である。

77 は、底部から口縁部付近に垂直に近く立ち上がり、口縁部付近で外反する。底部には 1.5 cm 大の穿孔がある。灰緑色の釉を施した小型の植木鉢である。

78 は、薄緑色の釉を施した茶壺蓋である。79 は撮み部が宝株形を呈し、撮み部から急激に内湾する茶褐色の蓋で、火消壺の蓋と思われる。80 は内面の口辺部から外面まで茶褐色の釉に施した煙草火入碗である。

その他の遺物「第 15 図 84、図版 16」

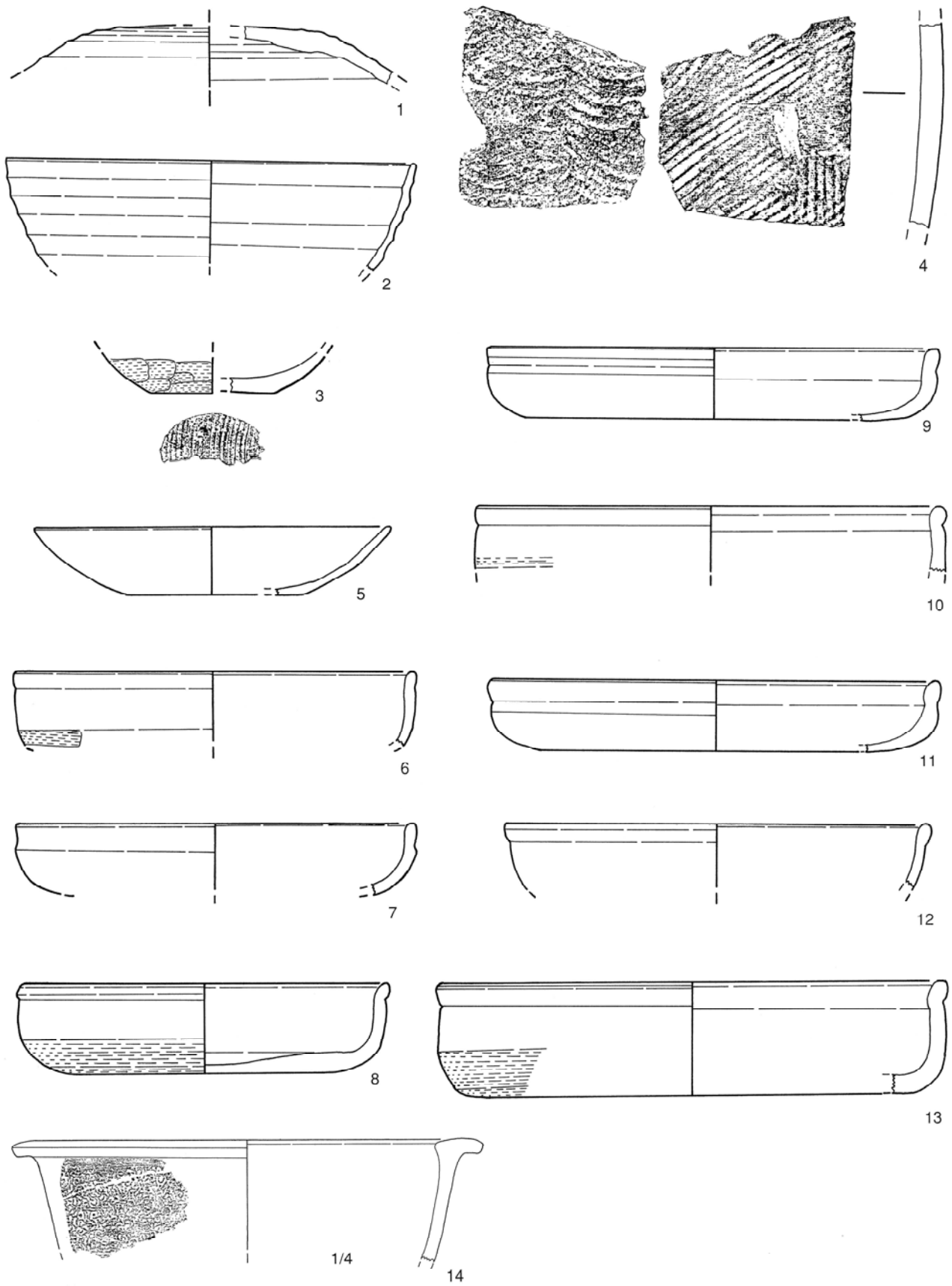
84 は円盤状の石製品である。両面ともに線状の研磨痕が認められる。他に近世と推測される曳き臼や砥石等があるが図面は割愛した。鉄製品には、かんざし、釘状鉄製品等がある。木製品としては遺構内部に設置してある桶をはじめ、棒状木製品、杭等があり、何れも近世の所産と考えている。

5 まとめ

大浦遺跡群は、これまでの調査結果を総合すると古代の官衙跡「置賜郡衙」と推測されるもので、官衙の中心部「郡庁もしくは正倉」と推測される大浦 B 遺跡をはじめ、厨跡もしくは官人の館跡とみられる大浦 C 遺跡、官衙の外郭範囲を示す柵列跡が確認された大浦 A・B 遺跡等から、南北約 120 m、東西約 400 m の範囲が大浦遺跡の官衙区域とみられている。

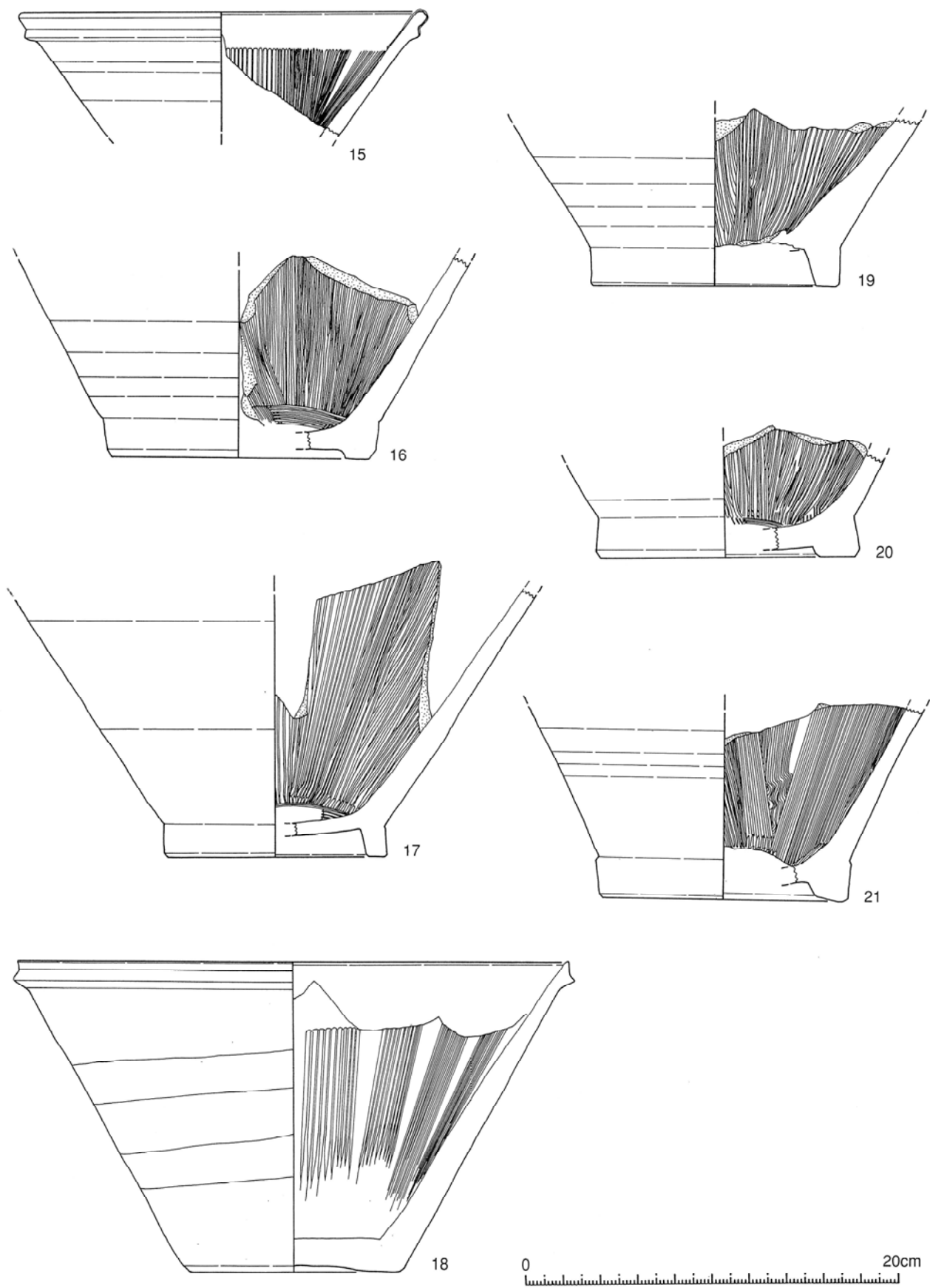
今回の調査区では、官衙跡に伴う遺構は検出されず、中世期から近世、近代の遺跡であることが確認された。多くの柱穴が検出されたのにも係らず明確な建物跡を把握することはできなかった。しかし、こういった柱穴群が数多く存在する傾向は、大浦 C 遺跡はじめ中世期の遺跡と共通していることを指摘しなければならない。今回出土した遺物の大半は、近世の流し場と推測される小川跡や捨て場に用いられた土壌等からの検出であり、柱穴群の年代と直結する可能性は低いものと考えている。従って、今回の柱穴群の多くは中世期の属するものと考えるのが妥当であり、大浦遺跡群の中世期における集落規模が広範囲であったものといえる。

一方、今回の調査では、奈良、平安時代の遺構・遺物が認められなかったことは、所謂「官衙」区域の中でも施設等が伴わない空白地であったともいえる。

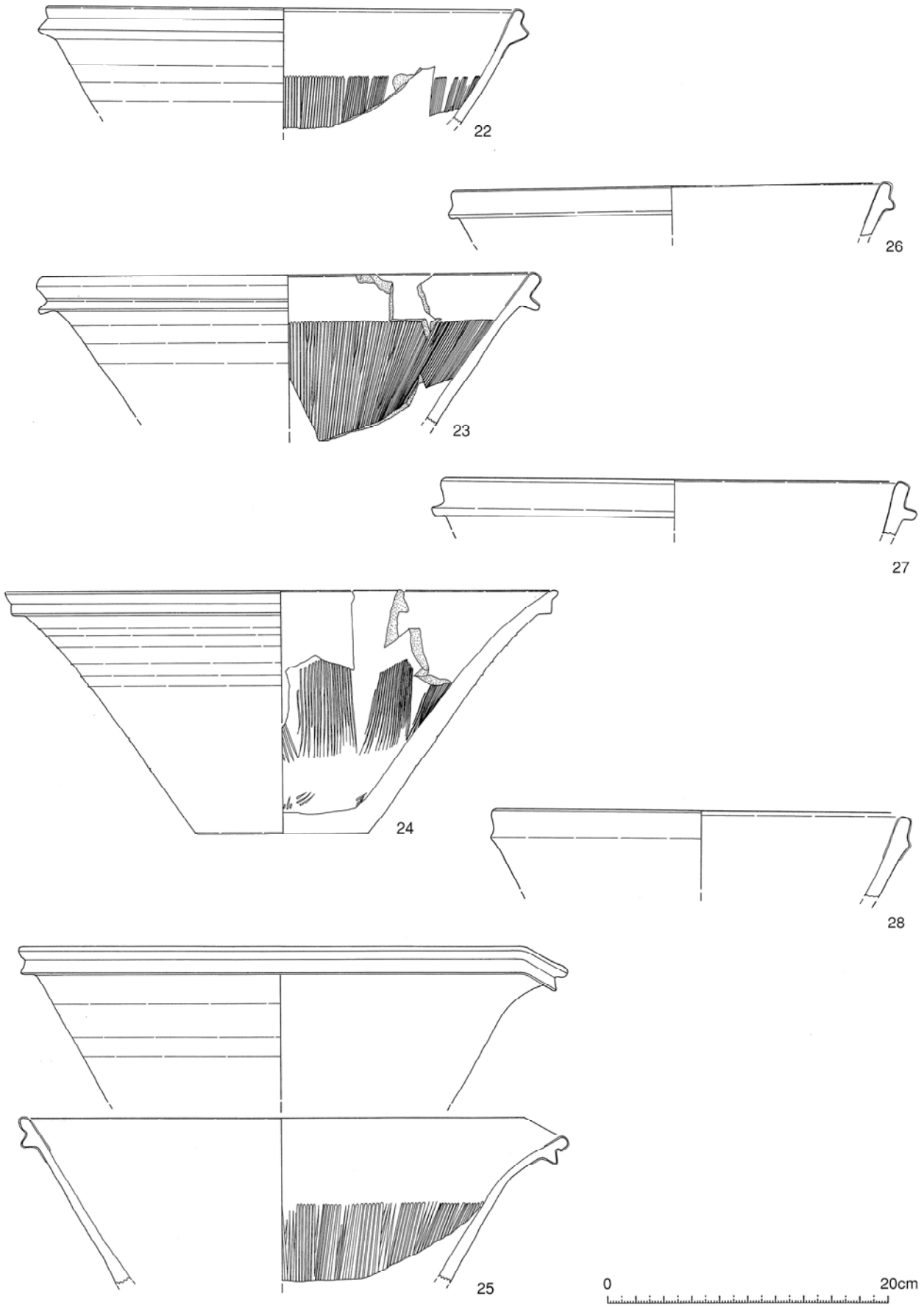


0 2 4 6 8 10cm

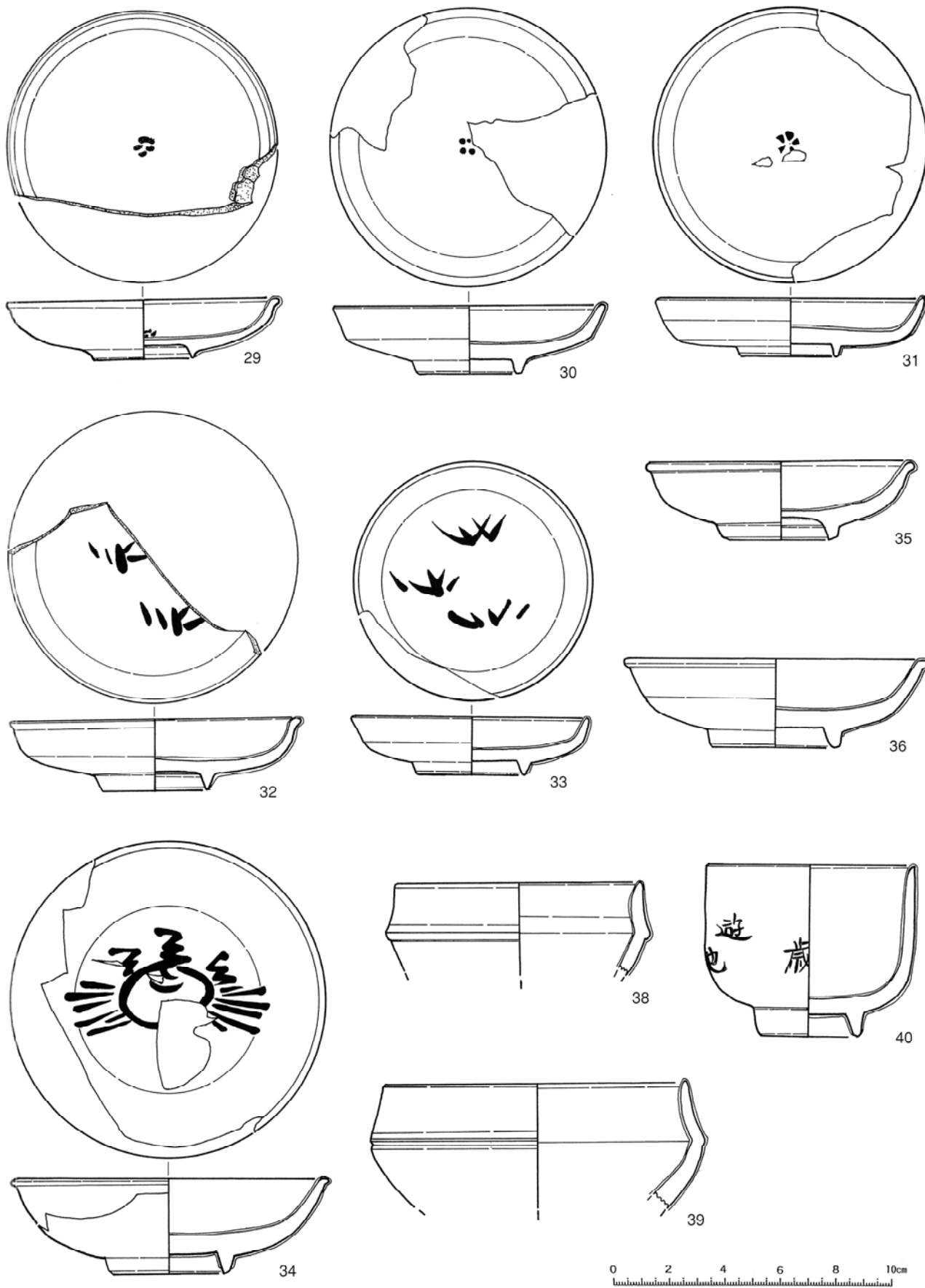
第10図 出土遺物実測図(1)



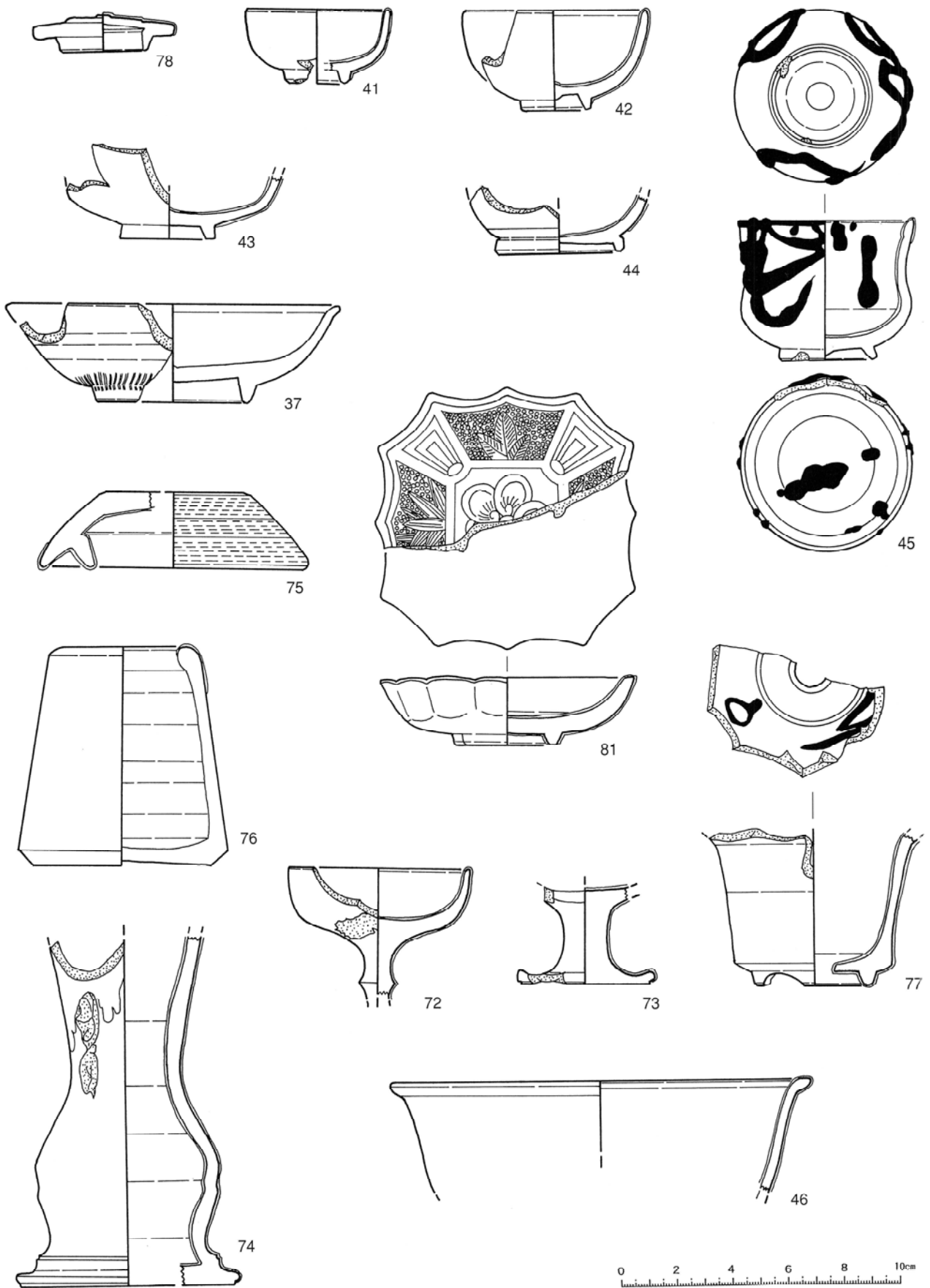
第11图 出土遺物実測図(2)



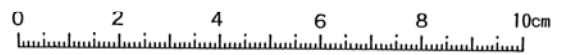
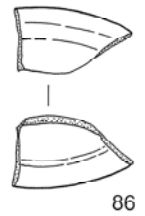
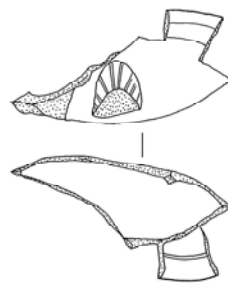
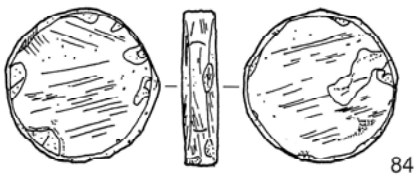
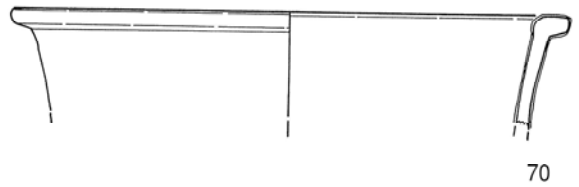
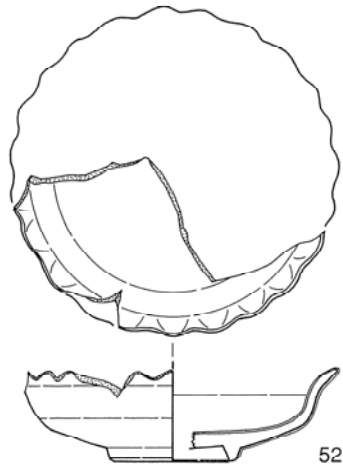
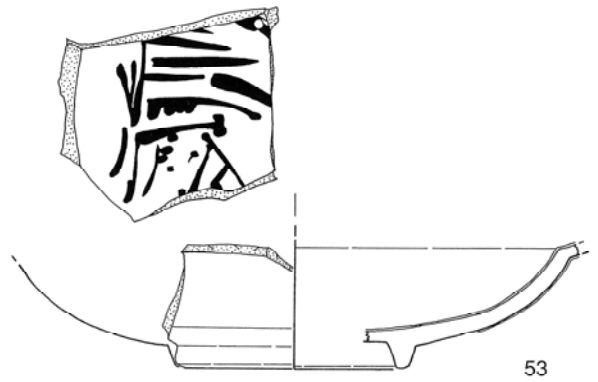
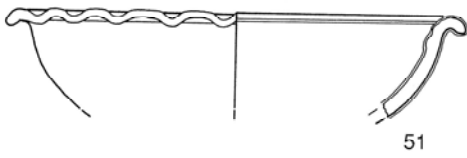
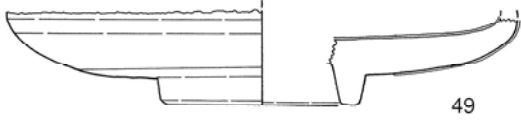
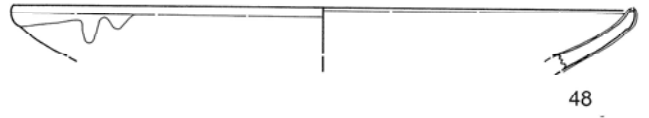
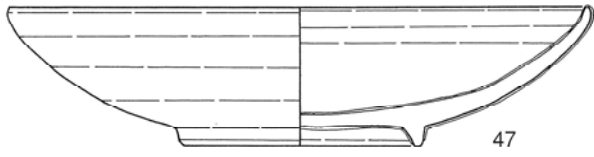
第12図 出土遺物実測図(3)



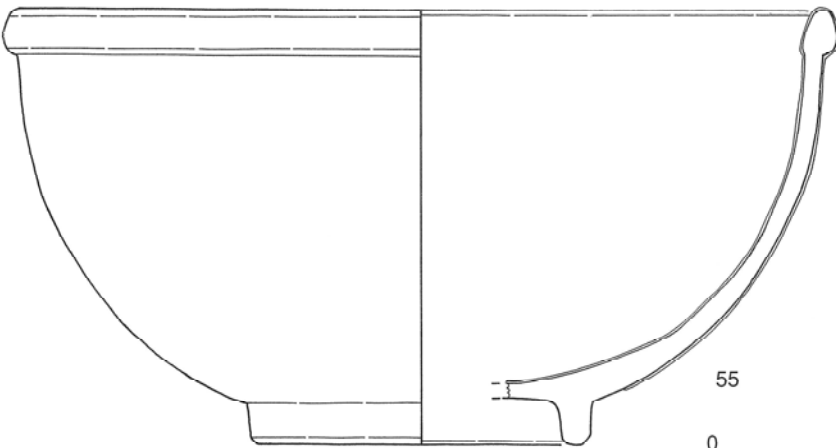
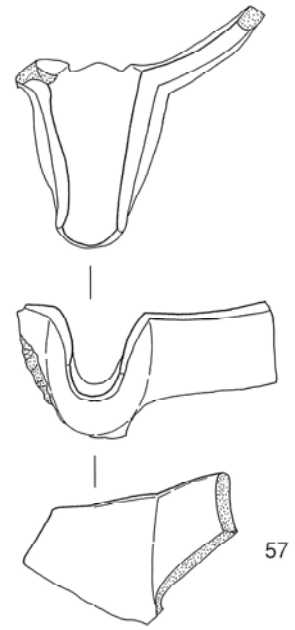
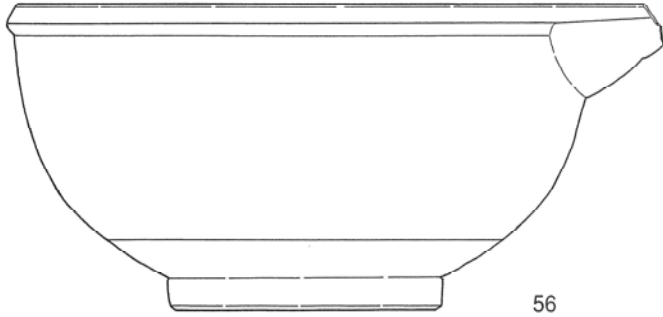
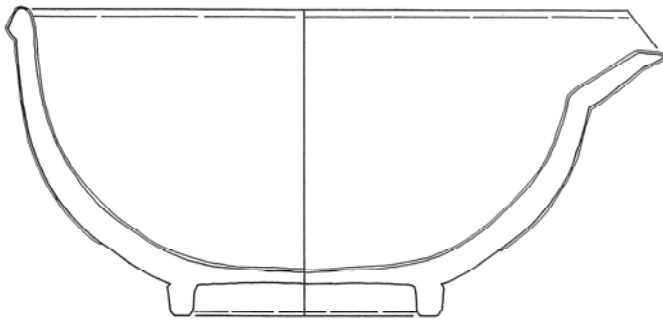
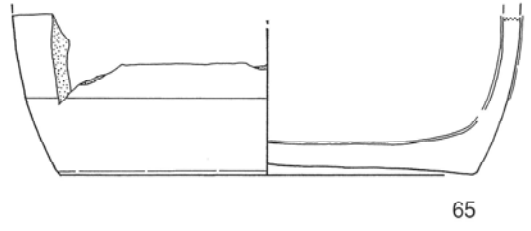
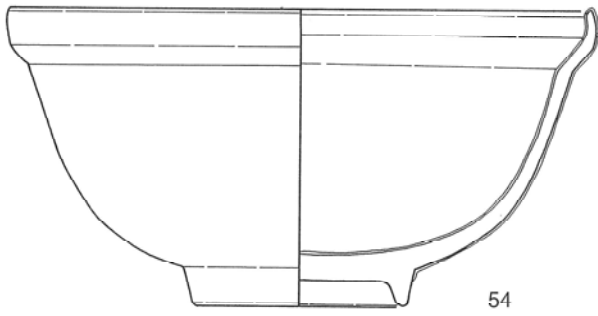
第 13 图 出土遺物実測図 (4)



第 14 图 出土遺物実測図 (5)



第15图 出土遗物实测图(6)



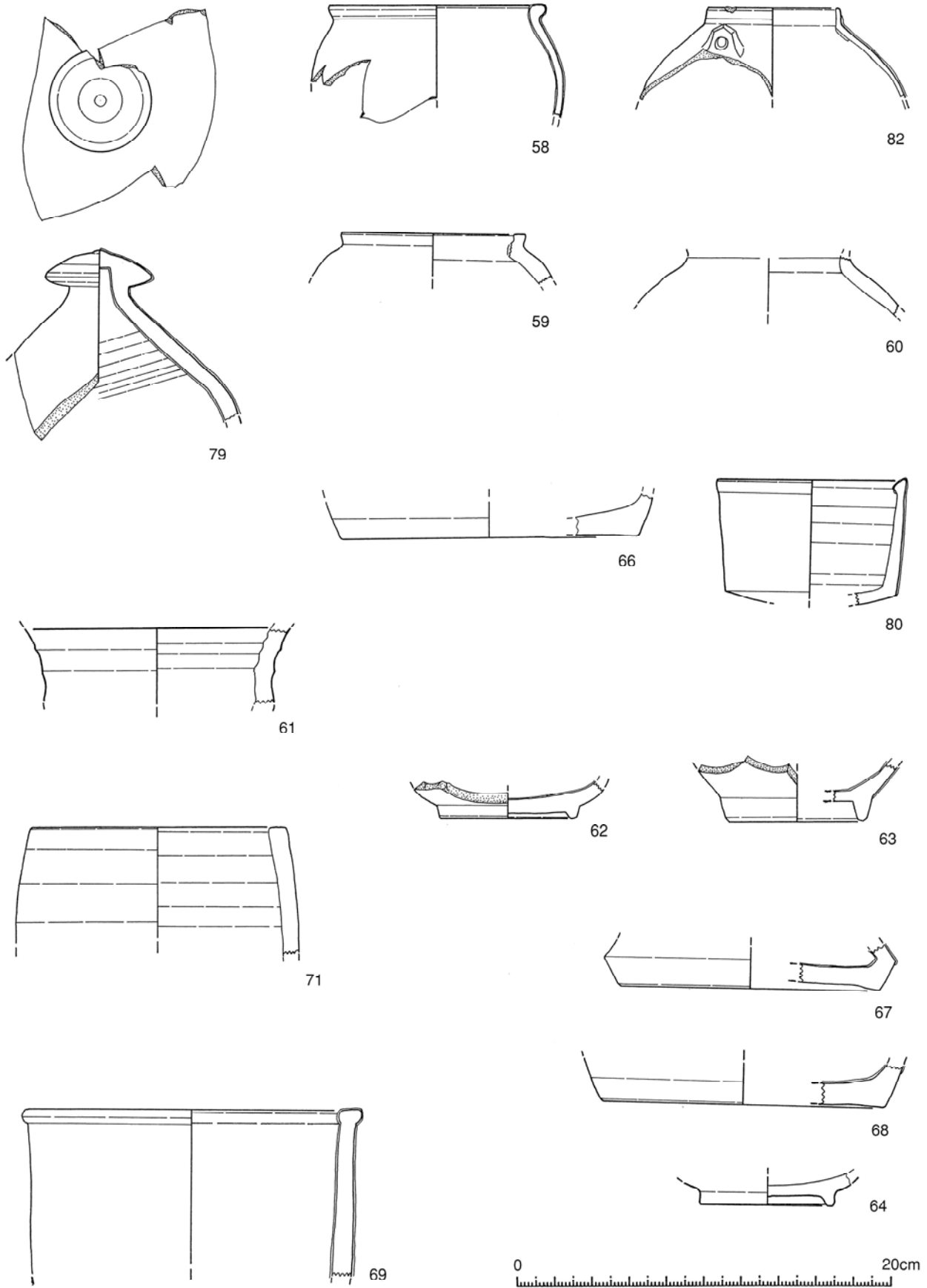
55

0

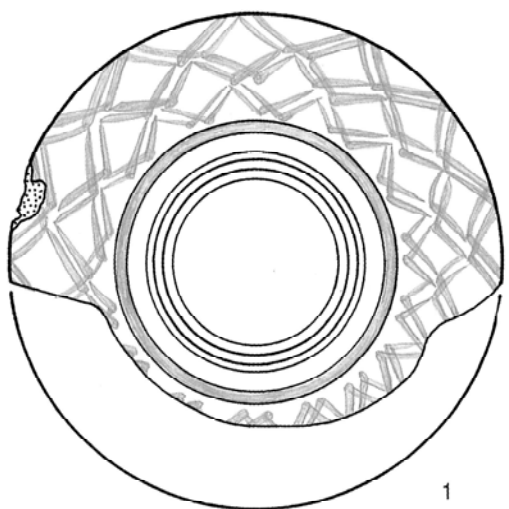
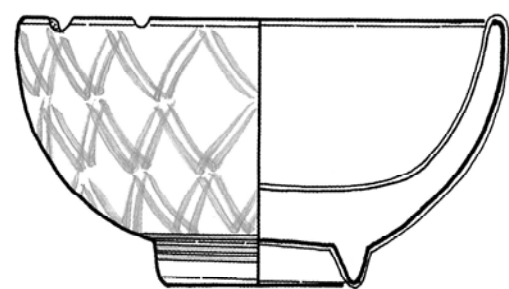
20cm



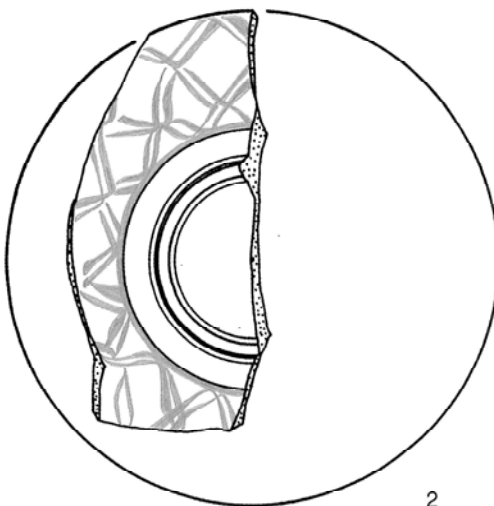
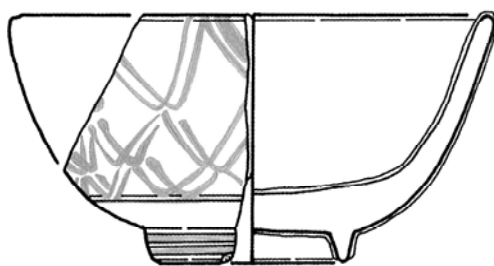
第16图 出土遺物実測図(7)



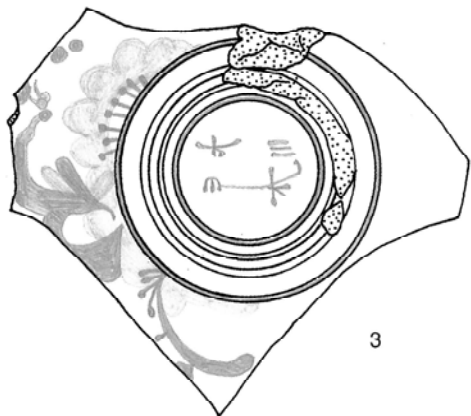
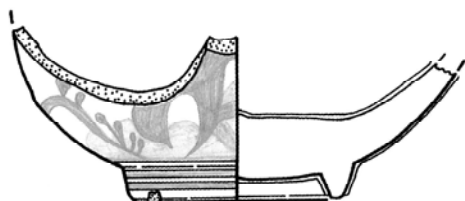
第17图 出土遺物実測図(8)



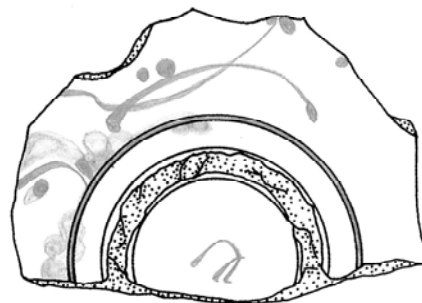
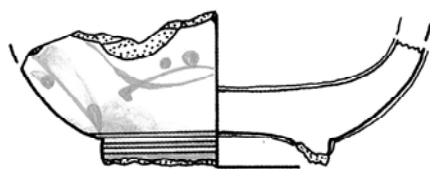
1



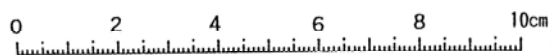
2



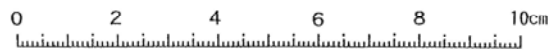
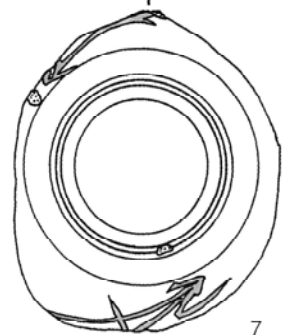
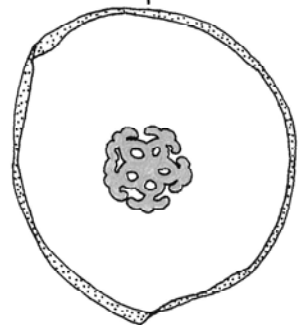
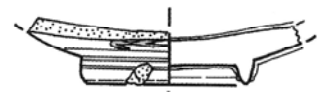
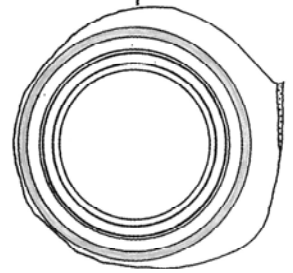
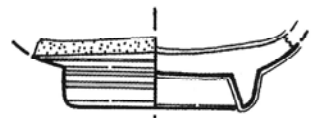
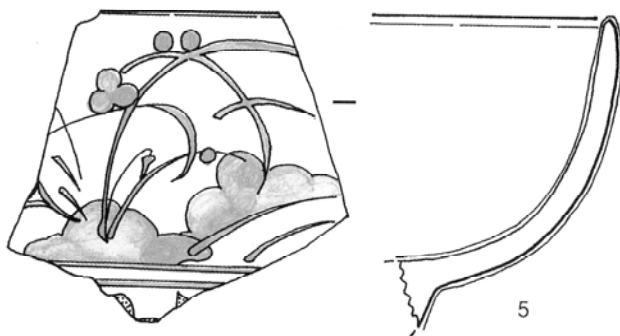
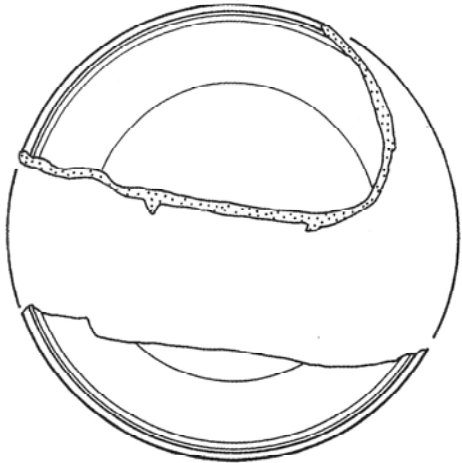
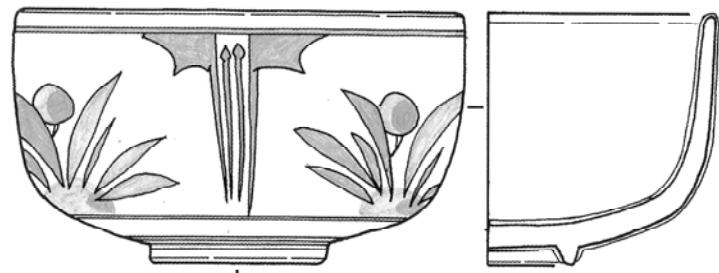
3



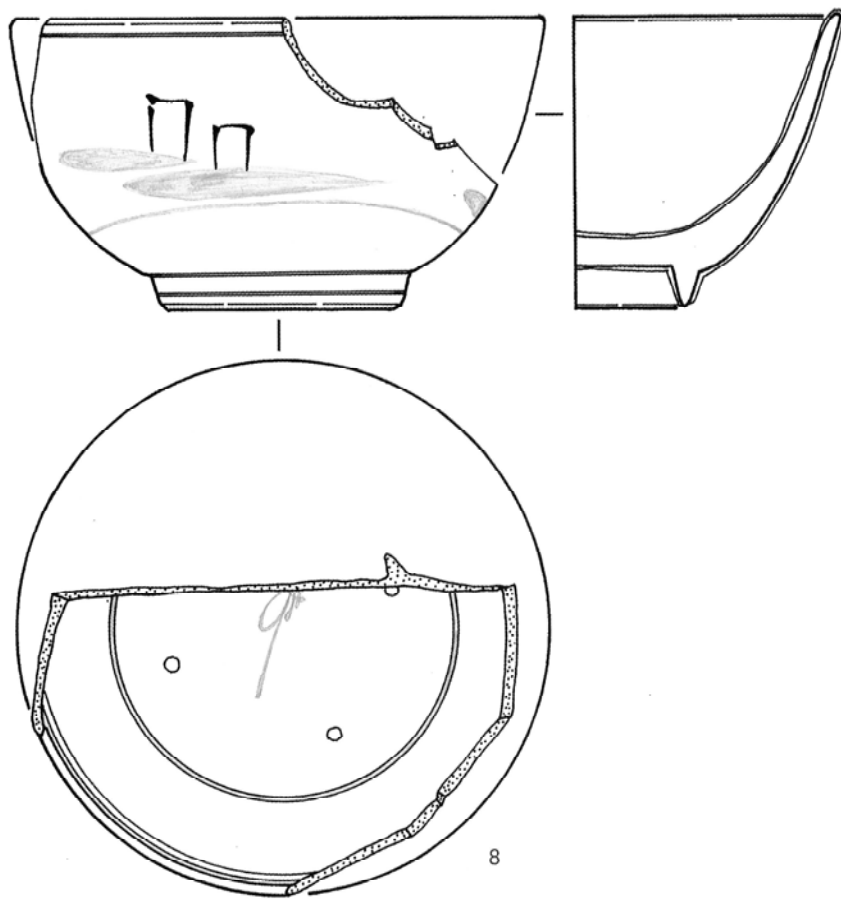
4



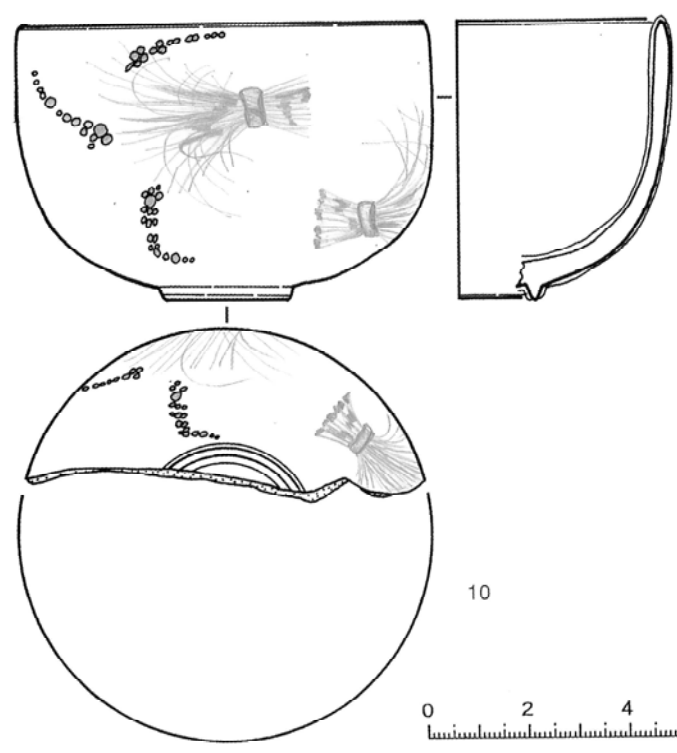
第18図 出土遺物実測図(9)



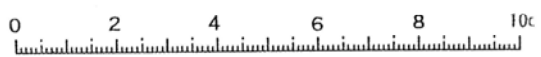
第19图 出土遗物实测图(10)



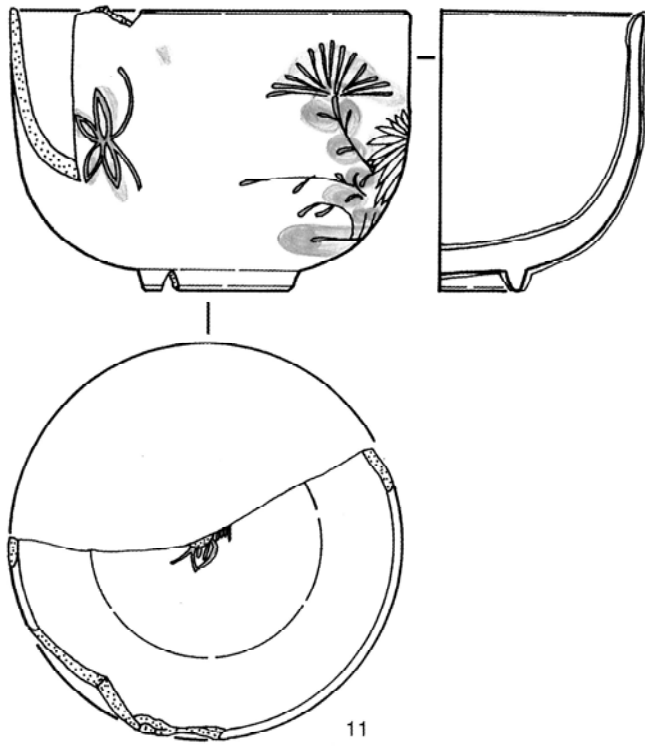
8



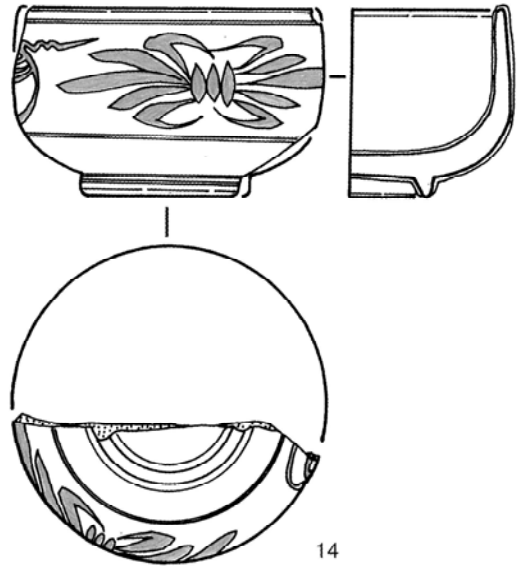
10



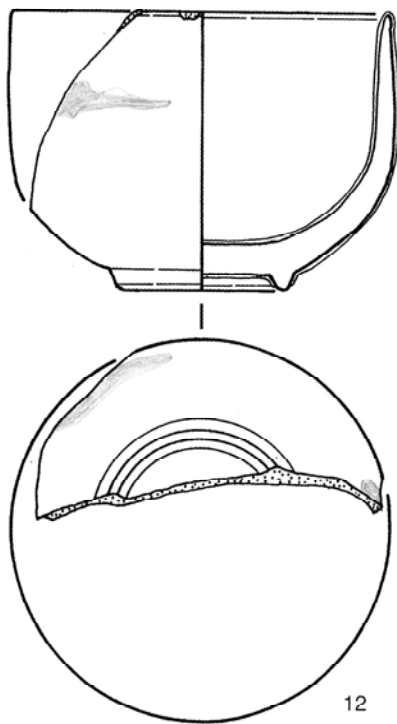
第 20 図 出土遺物実測図 (11)



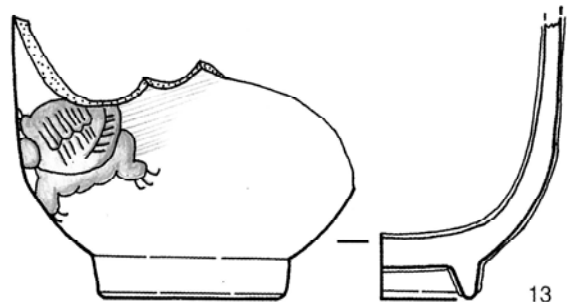
11



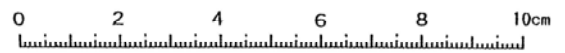
14



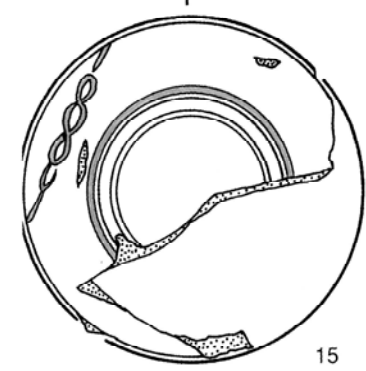
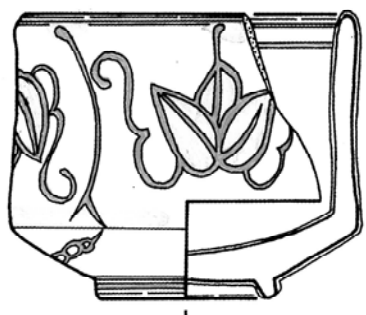
12



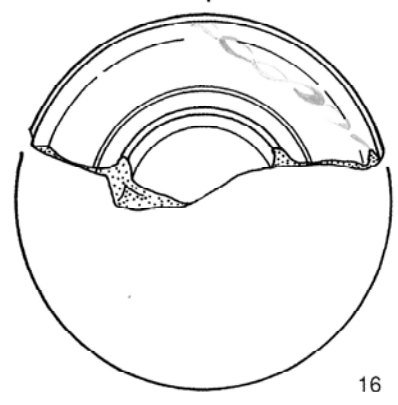
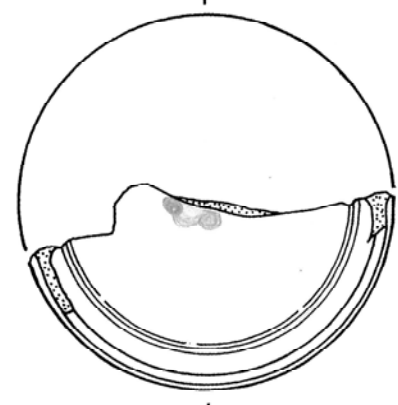
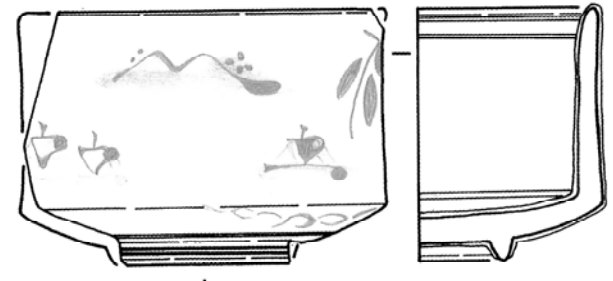
13



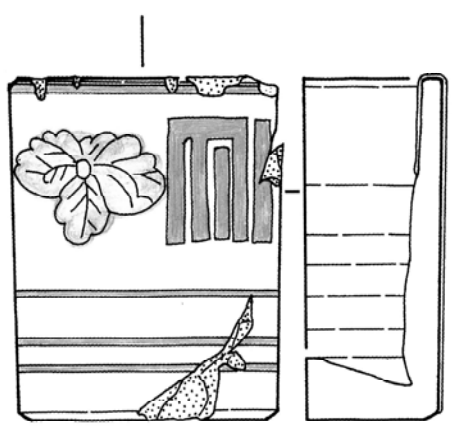
第21图 出土遺物実測図(12)



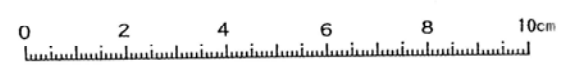
15



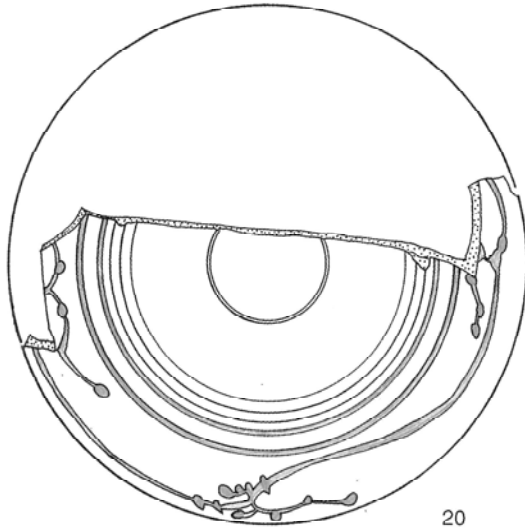
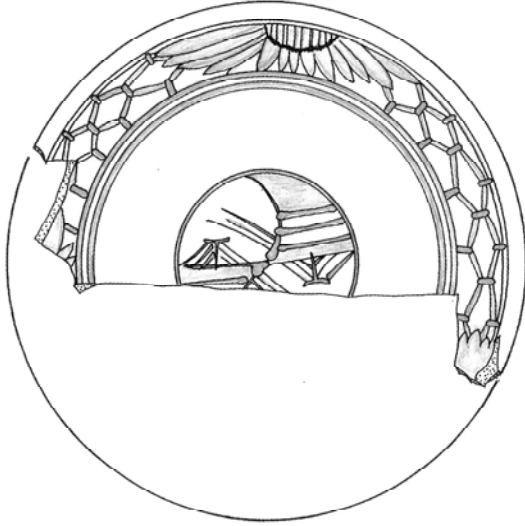
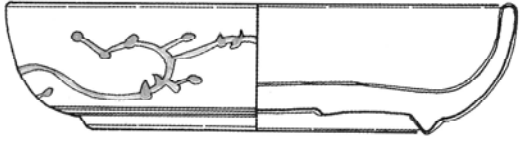
16



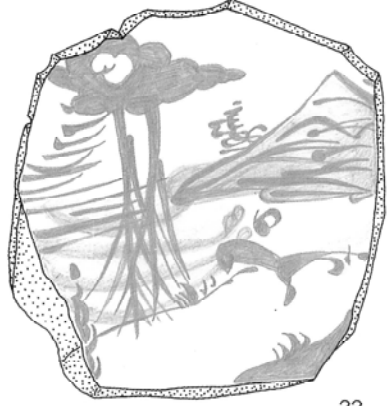
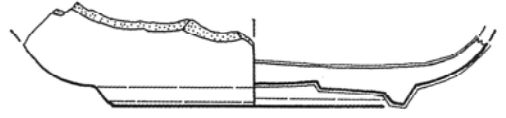
17



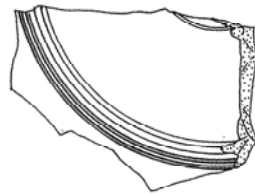
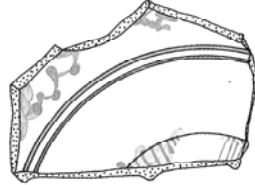
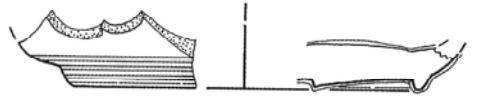
第 22 图 出土遺物実測図 (13)



20



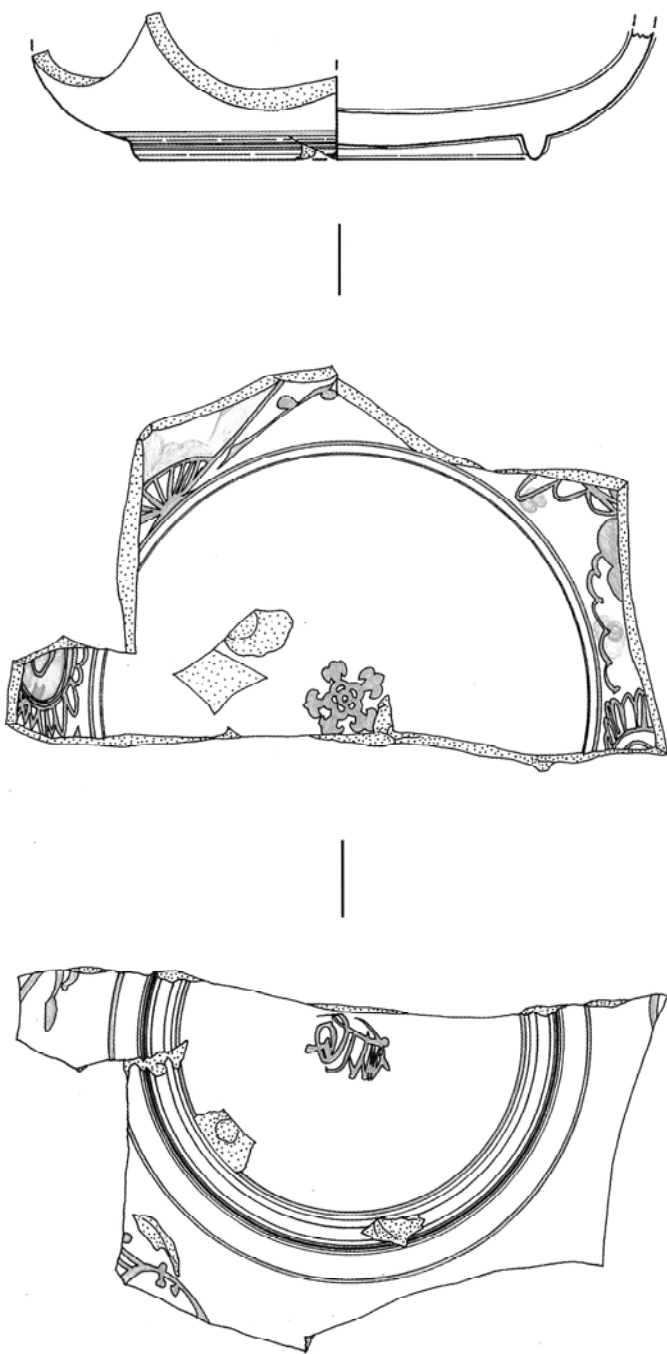
22



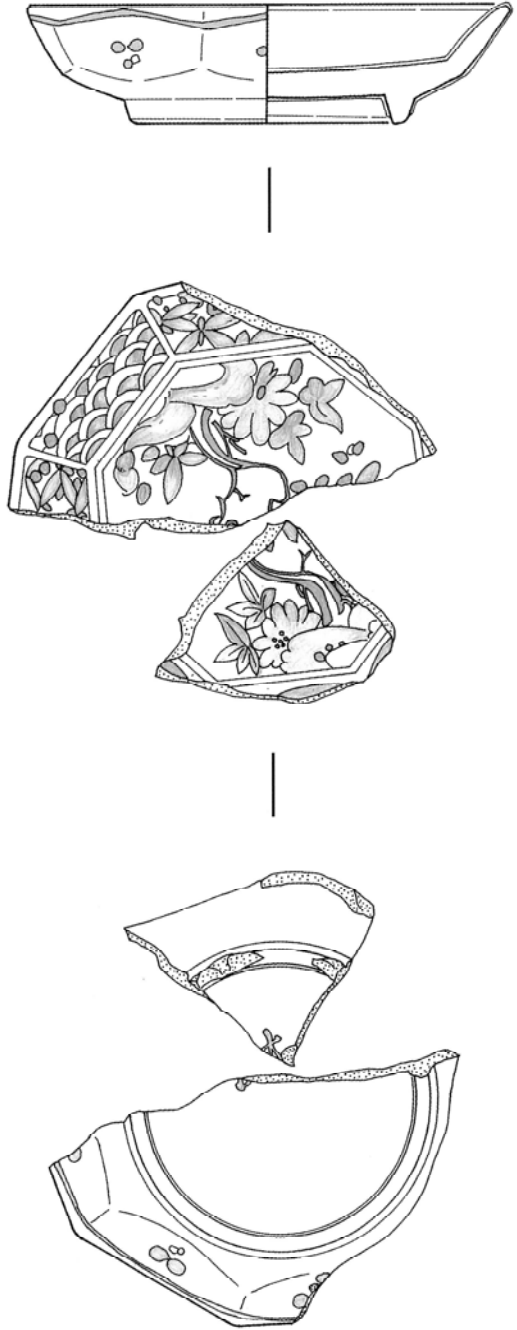
21



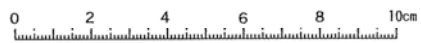
第 23 图 出土遺物実測図 (14)



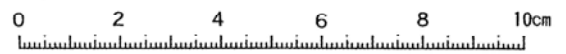
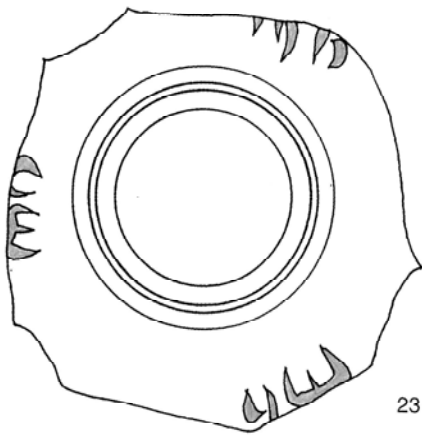
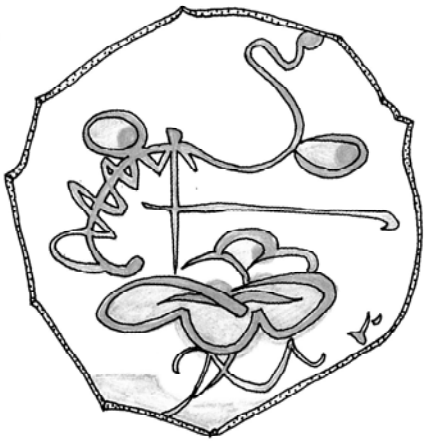
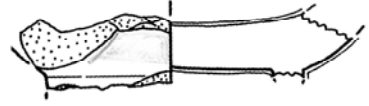
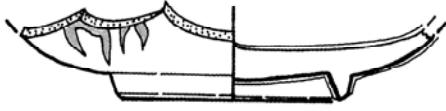
18



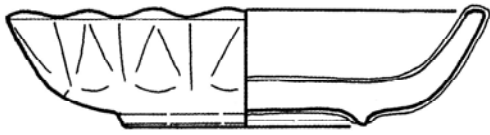
19



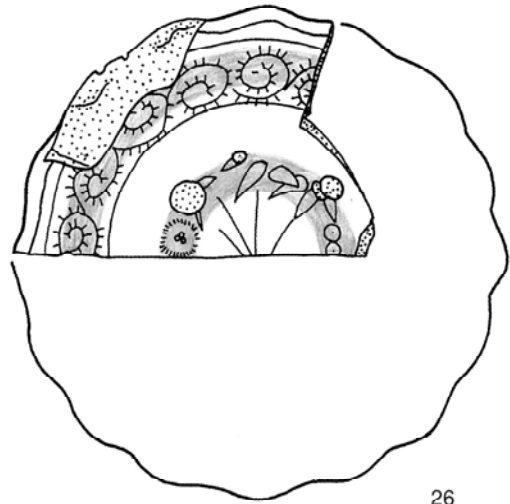
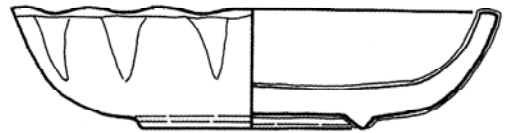
第24图 出土遺物実測図 (15)



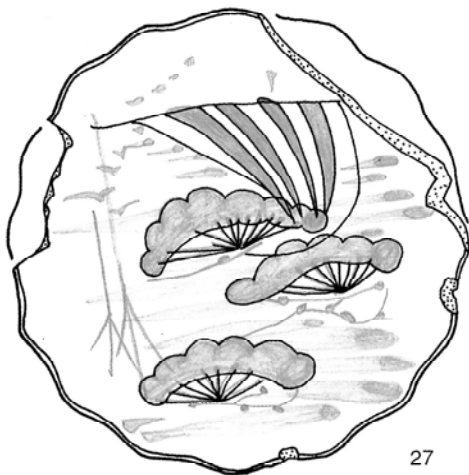
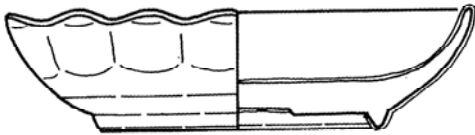
第 25 图 出土遺物実測図 (16)



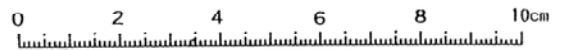
25



26



27



第 26 图 出土遺物実測図 (17)

表一 大浦B遺跡出土遺物観察表

NO	挿 図	出土地区	口 径	器 高	底 径	備 考
1	第10図	D Y 41				須恵器 蓋
2	第10図	K Y 22	14.5	(3.7)		須恵器 坏
3	第10図	K Y 22		(1.4)	(4.4)	須恵器 坏
4	第10図	表採				須恵器 甕
5	第10図	D Y 36	12.1	2.4	6.2	かわらけ
6	第10図	S N 23	14.2	(2.5)		かわらけ
7	第10図	S N 23	14.1	(2.3)		かわらけ
8	第10図	S N 23	13.1	(3.2)		かわらけ
9	第10図	S N 23	16	(2.5)	13.5	かわらけ
10	第10図	S N 23	16.6	(2.5)		かわらけ
11	第10図	G 10 - 7	16	2.5	12.4	かわらけ
12	第10図	S N 23	15	(2.2)		かわらけ
13	第10図	S N 23	18	4.1	15.7	かわらけ
14	第10図	D Y 33	16.7	(3.8)	6.2	土師質土器 手焙り
15	第11図	V Y 65	22	6.4		摺鉢
16	第11図	T Y 173		(6.4)		摺鉢
17	第11図	D Y 33		(16)	12	摺鉢
18	第11図	S N 23	29.8	16.7	11.4	摺鉢
19	第11図	V Y 65		(9.6)	17.2	摺鉢
20	第11図	D Y 33		(7)	13.8	摺鉢
21	第11図	D Y 33		(11)	13	摺鉢
22	第12図	D Y 38	34.2	8.4		摺鉢
23	第12図	V Y 65	36.2	(11)		摺鉢
24	第12図	S N 23	39.6	17.4	12.4	摺鉢
25	第12図	S N 23	39.4	(11)		摺鉢
26	第12図	D Y 42	31.6	(3.4)		摺鉢
27	第12図	表採	33.6	(2.6)		摺鉢
28	第12図	D Y 33	30	(3.6)		摺鉢
29	第13図	S N 23	9.9	2.2	3.7	小皿
30	第13図	S N 23	9.8	2.5	3.8	小皿
31	第13図	S N 23	9.8	2.2	3.5	小皿
32	第13図	T Y 49	10.6	2.6	3.8	小皿
33	第13図	S N 23	8.6	2.1	3.8	小皿
34	第13図	S N 23	11.4	3.4	4.1	小皿
35	第13図	S N 23	9.8	2.9	3.5	小皿
36	第13図	表採	11	(3.2)	4.7	小皿
37	第14図	S N 23	12.1	3.6	5.3	小皿
38	第13図	S N 23	9	(3.3)		碗

表-2 大浦B遺跡出土遺物観察表

NO	挿 図	出土地区	口 径	器 高	底 径	備 考
39	第 13 図	S N 23	11	(4.5)		鉢 碗
40	第 13 図	S N 23	7.5	6.2	3.6	鉢 碗
41	第 14 図	表採	5.2	2.7	2	盃
42	第 14 図	S N 23		(2.3)	4.2	盃
43	第 14 図	表採		3.3	3.5	盃
44	第 14 図	S N 23		(2.3)	4.2	盃
45	第 14 図	D Y 38	6.4	5	3.3	盃
46	第 14 図	S N 23	15.3	3.3		鉢
47	第 15 図	D Y 33	23.4	5.6	9.4	小皿
48	第 15 図	S N 23	25	(2)		小皿
49	第 15 図	S N 23		(3.8)	7.6	小皿
50	第 15 図	S N 23	22.2	(4)		皿 小皿
51	第 15 図	S N 23	18.4	(3.8)		鉢
52	第 15 図	S N 23		(3.6)	4.8	鉢
53	第 15 図	S N 23		(5)		鉢
54	第 16 図	S N 23	23.4	11.8	8.2	片口
55	第 16 図	D Y 33	33.4	17.2	13	鉢
56	第 16 図	V Y 65	26.2	12.2	10.4	片口
57	第 16 図	K Y 23				片口
58	第 17 図	K Y 23	11.6	(6.2)		小壺
59	第 17 図	表採	10	(2.4)		小壺
60	第 17 図	S N 23				小壺
61	第 17 図	D Y 42				壺
62	第 17 図	V Y 65		(1.8)	7.4	壺
63	第 17 図	D Y 41		(3.2)	7.2	壺
64	第 17 図	D Y 32		(1)	7.2	壺
65	第 16 図	D Y 33		(6)	16.8	きったて
66	第 17 図	表採		(2)	16.2	きったて
67	第 17 図	表採		(2.2)	14	きったて
68	第 17 図	D Y 33		(2.4)	15.2	きったて
69	第 17 図	S N 23	18.4	(8.4)		きったて
70	第 15 図	表採	22.4	(4)		鉢
71	第 17 図	D Y 37	13.8	(6)		鞘
72	第 14 図	S N 23	6.5	4.6		仏飯器
73	第 14 図	T Y 173		(3.4)	4.7	仏飯器
74	第 14 図	S N 23		12.4	7.7	仏花器
75	第 14 図	表採	5.6	2.7	5	茶壺 蓋
76	第 14 図	D Y 37	5.4	7.9	6.5	花瓶

表-3 大浦B遺跡出土遺物観察表

NO	挿 図	出土地区	口 径	器 高	底 径	備 考
77	第14図	D Y 33		(5.7)	4.2	植木鉢
78	第14図	S N 23	5.1	1.3	3	蓋
79	第17図	V Y 65		(10.6)		蓋
80	第17図	S N 23	10.2	(6.6)		煙草火入碗
81	第14図	S N 23	9.3	2.5		小皿
82	第17図	D Y 32	7.2	(4.8)		土瓶
83	第17図	S N 23				古銭(寛永通寶)
84	第17図	T Y 1	3	0.6		円盤状石製品
85	第15図	S N 23				
86	第15図					

表-4 大浦B遺跡出土遺物(染め付け)観察表

NO	挿 図	出土地区	口 径	器 高	底 径	備 考
1	第18図	S N 23	9.3	5.2	3.9	碗
2	第18図	S N 23	9.6	4.8	3.8	碗
3	第18図	S N 23		(3.3)	4.2	碗
4	第18図	T Y 173		(3.2)	(4.5)	碗
5	第19図	S N 23				碗
6	第19図	S N 23		(1.4)	3.3	碗
7	第19図	S N 23		(1.3)	3.4	碗
8	第20図	S N 23	10.7	5.8	4.5	碗
9	第19図	S N 23	9	5	3.4	碗
10	第20図	S N 23	8.3	5.5	2.5	碗
11	第21図	S N 23	8	5.6	3	碗
12	第21図	S N 23	7.65	5.6	3.4	碗
13	第21図	S N 23		5.5	3.7	碗
14	第21図	S N 23	6.1	3.7	3.3	酒杯
15	第22図	S N 23	6.8	5.7	3.6	酒杯
16	第22図	S N 23	7.3	5.1	3.6	酒杯
17	第22図	D Y 41	5.3	6.8	4.7	そば猪口
18	第24図	S N 23		(3.5)	10.6	皿
19	第24図	S N 23	12.7	3.2	7.2	皿
20	第23図	S N 23	13.5	3.3	9	皿
21	第23図	T Y 177		(2.2)	9.2	皿
22	第23図	V Y 65		(2.3)	7.7	皿
23	第25図	S N 23		(1.8)	4.5	皿
24	第25図	S N 23			(5.1)	皿
25	第26図	V Y 65	9.1	2.4	4.8	小皿
26	第26図	D Y 23	9.8	2.4	4.5	小皿
27	第26図	V Y 65	9.3	2.3	5.6	小皿

報告書抄録

ふりがな	おおうらびーいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	大浦B遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第75集							
編著者名	月山隆弘							
編集機関	米沢市教育委員会							
所在地	〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1番55号 TEL0238-22-5111							
発行年月日	西暦2000年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積	調査原因
おおうら 大浦B	やまがたけんよねざわし 山形県米沢市 なかたまち 中田町	市町村	遺跡番号					
		6202	米沢市 遺跡番号 J-245	37度 55分 30秒	140度 07分 30秒	20000605 ～20000721	674m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大浦B	官衙跡 集落跡	奈良時代 平安時代 中世	溝状遺構 井戸跡	陶磁器		官衙跡に関する遺構は 検出されなかった。 建物跡を構成されない。		

写 真 图 版



▲調査区全景（東から）



▲調査区近景（西から）



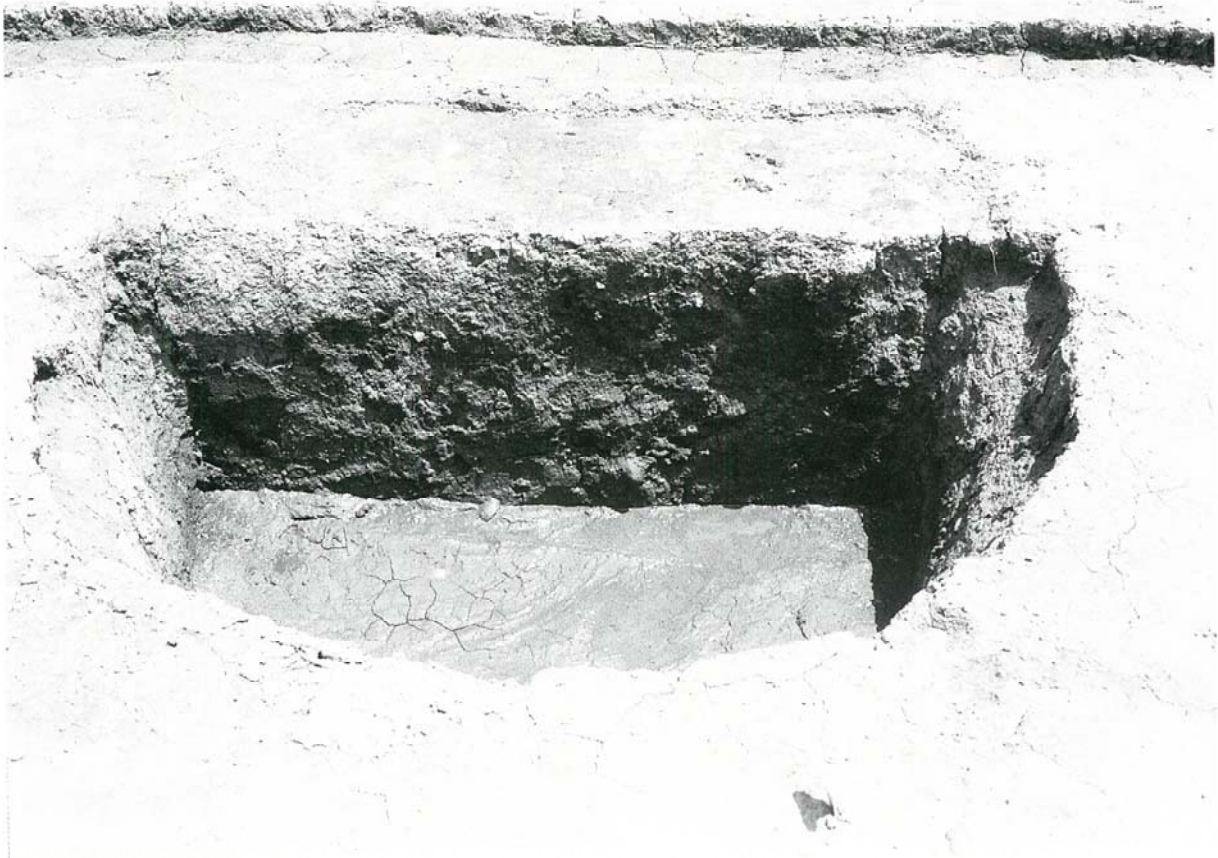
▲ DY32 土壙（西から）



▲ DY43 土壙（東から）



▲ DY41 土坑（西から）

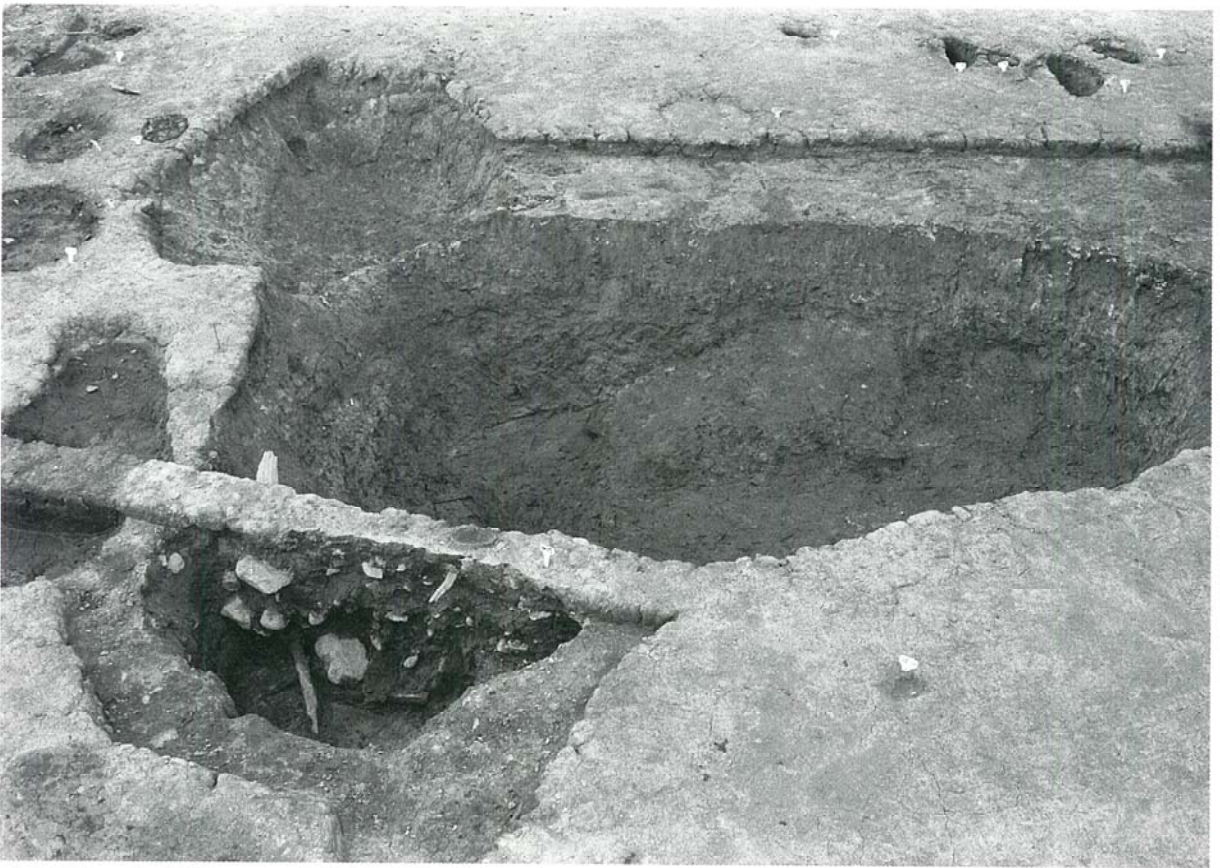


▲ DN63 井戸跡（西から）

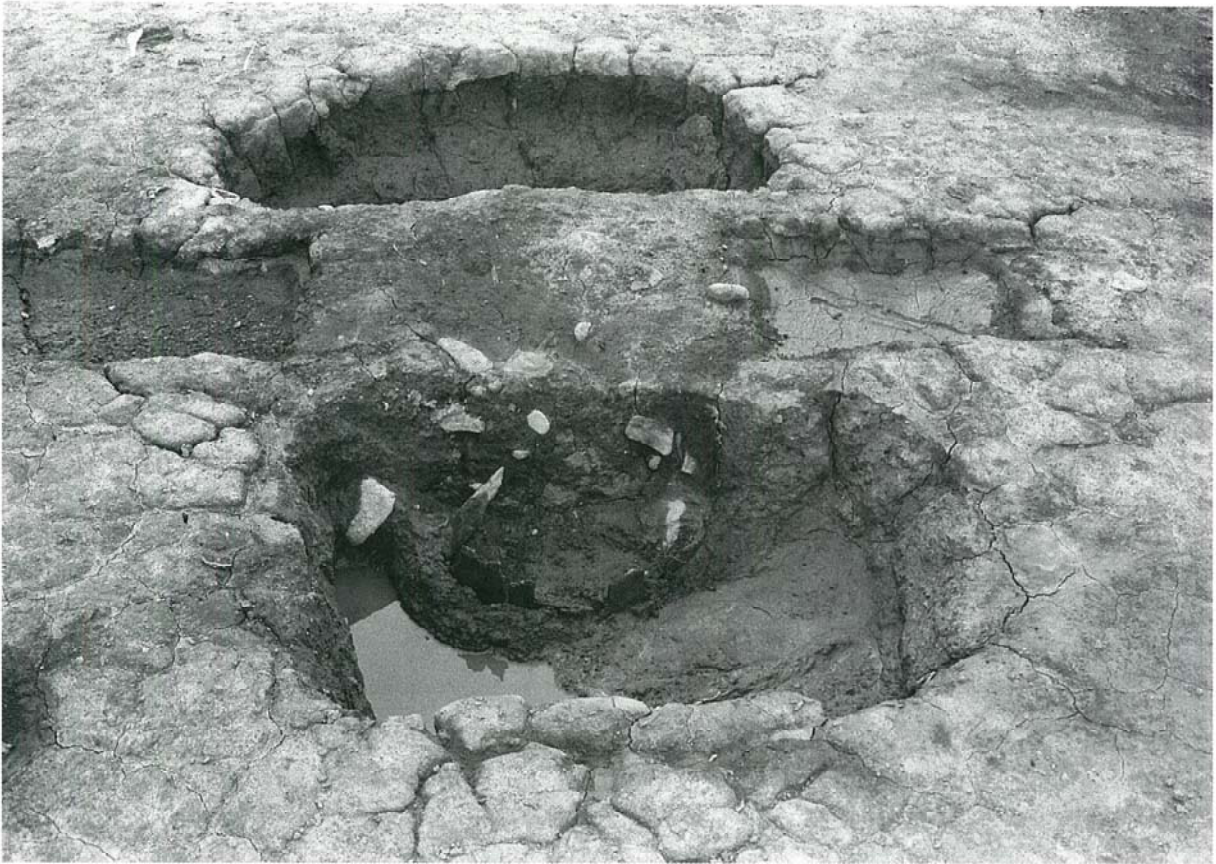
図版四 大浦B遺跡検出遺構



▲ DY41 土壙 (西から)



▲ DY33・38 土壙. VY65 桶埋設遺構 (南から)



▲ VY42 桶埋設遺構（西から）

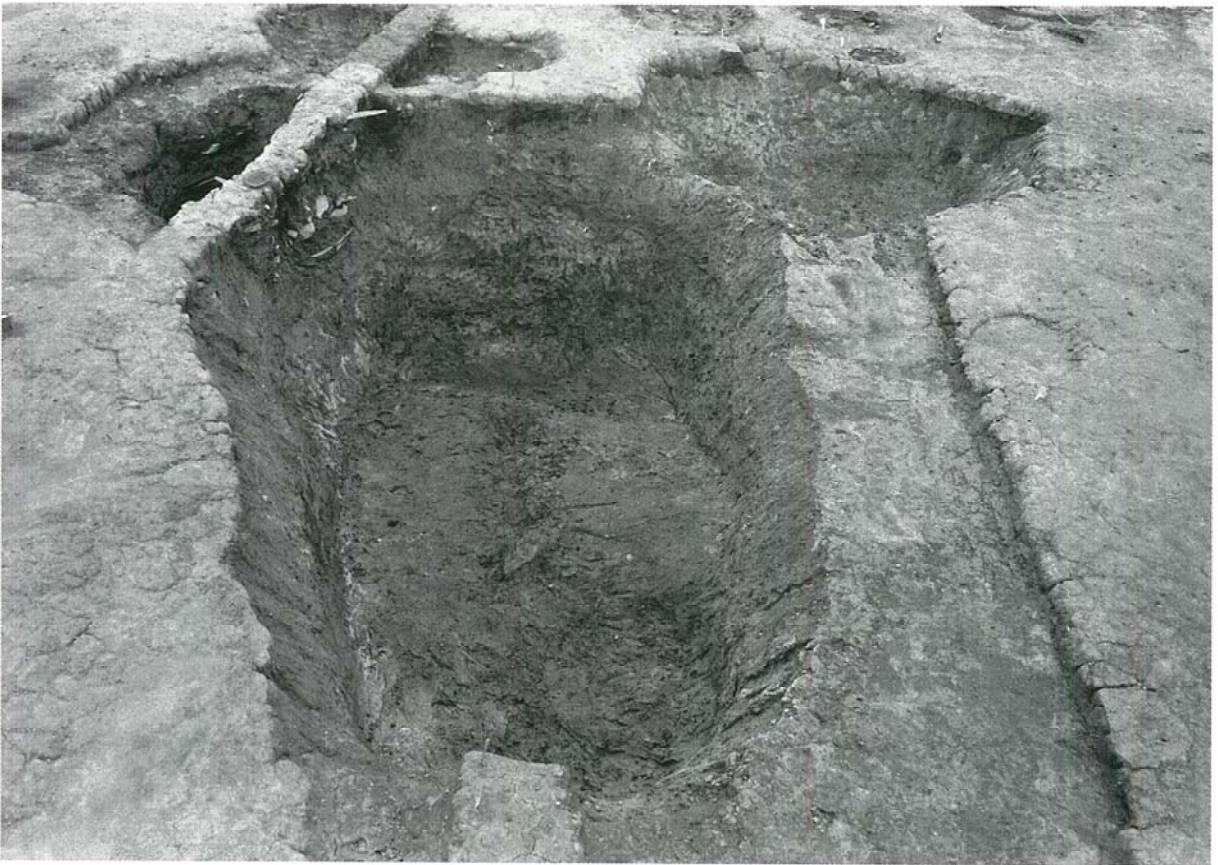


▲ VY65 桶埋設遺構（南東から）

図版六
大浦B遺跡検出遺構



▲ DY33・37・38 土壌。VY65 桶埋設遺構（東から）



▲ DY33・38 土壌他（西から）



▲ SN23 河川跡（南から）



▲ SN23 河川跡（南東から）

図版八 大浦B遺跡検出遺構



▲ SN23 河川跡（東から）



▲ 調査風景（東から）

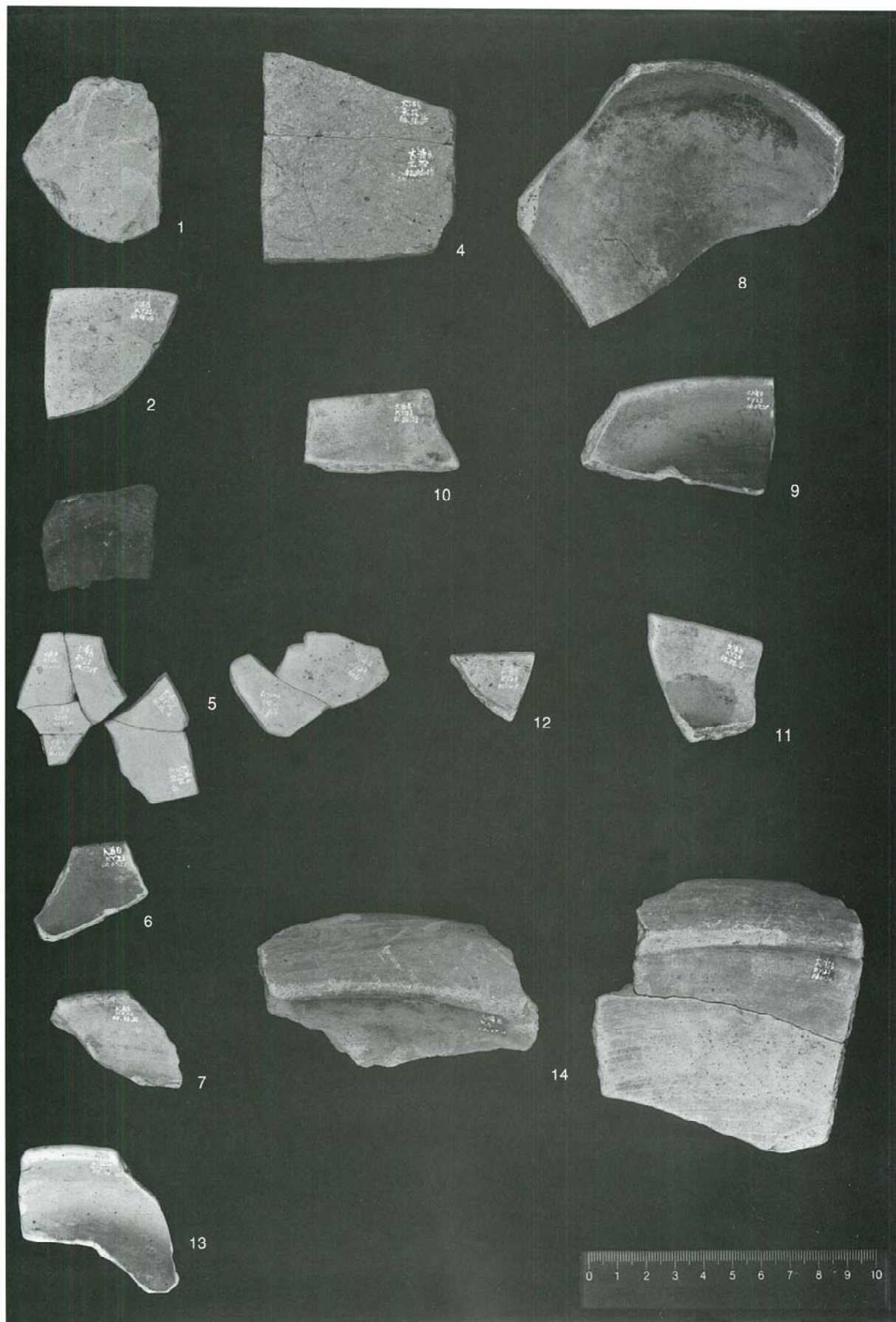
図版九 大浦B遺跡近景



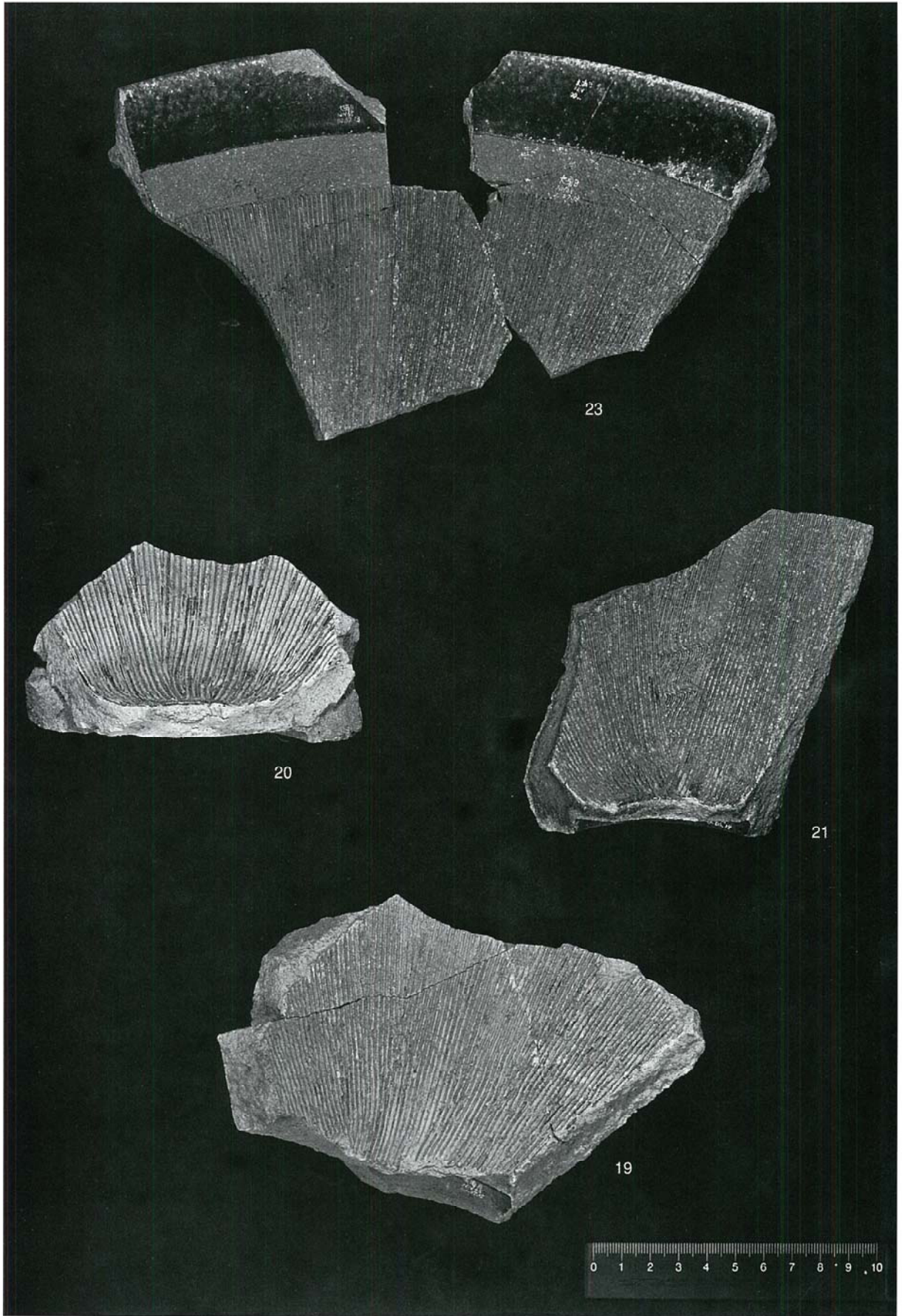
図版十 大浦B遺跡出土遺物(1)



図版十一 大浦B遺跡出土遺物(2)



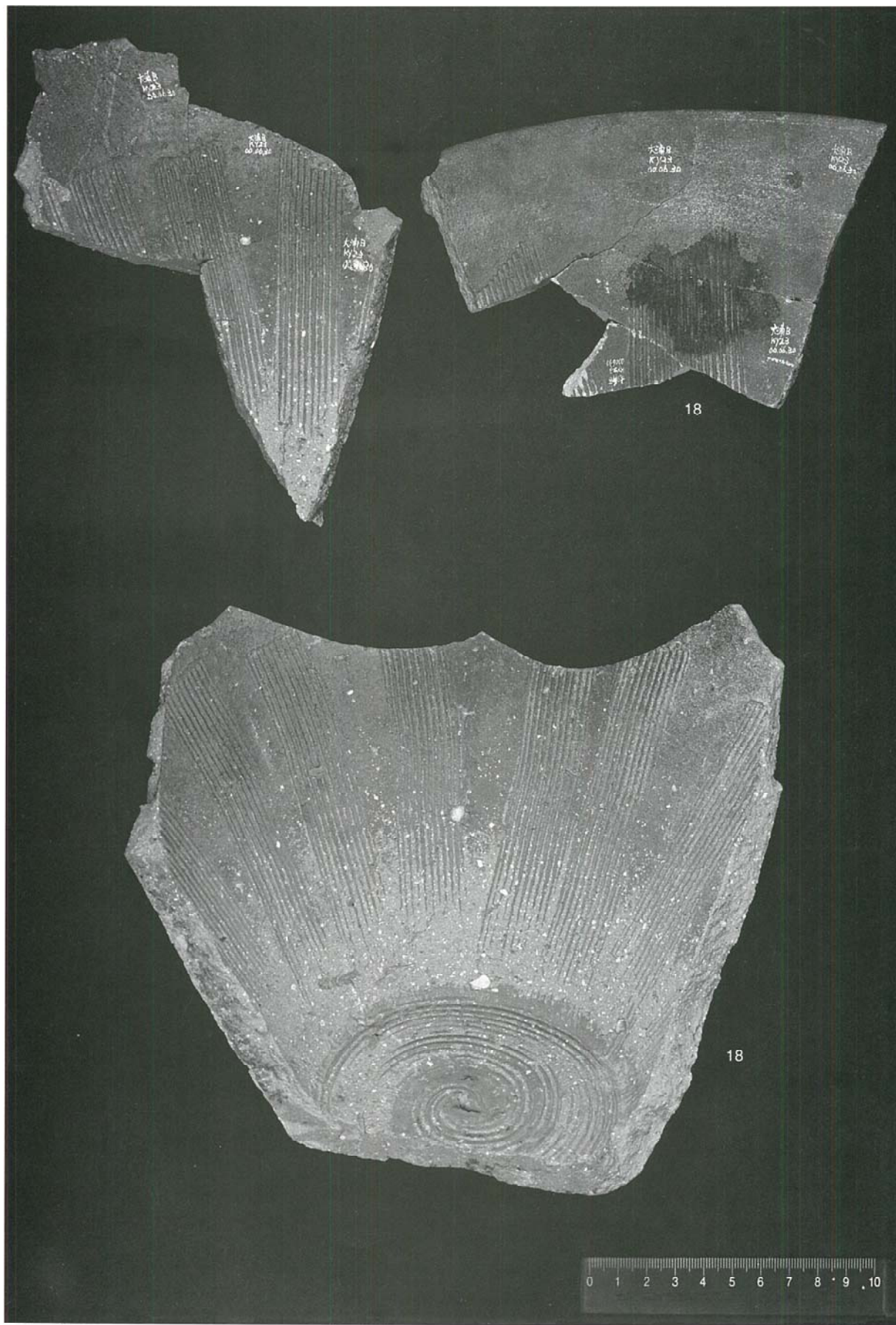
図版十二 大浦B遺跡出土遺物(3)



図版十三 大浦B遺跡出土遺物(4)



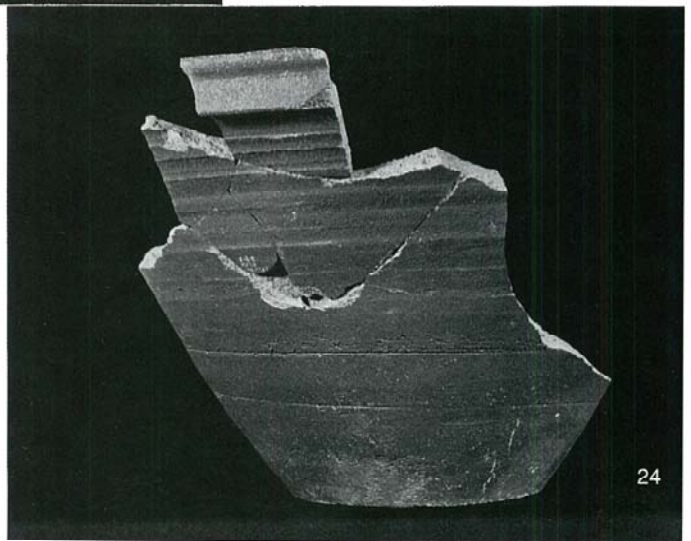
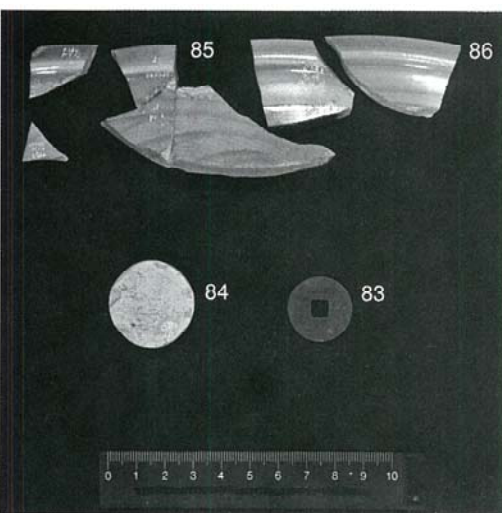
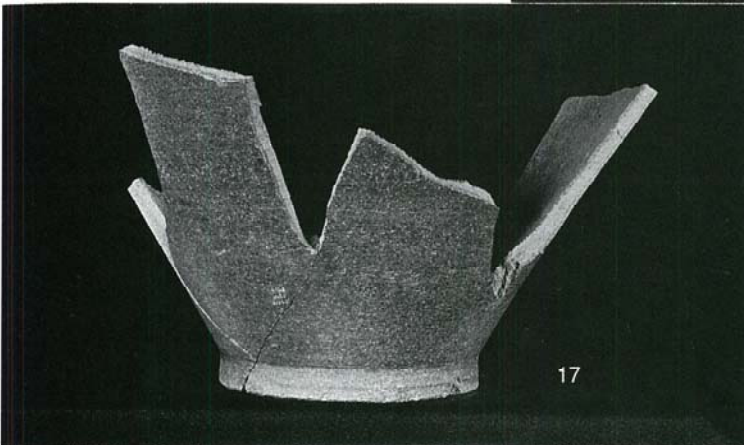
図版十四 大浦B遺跡出土遺物(5)

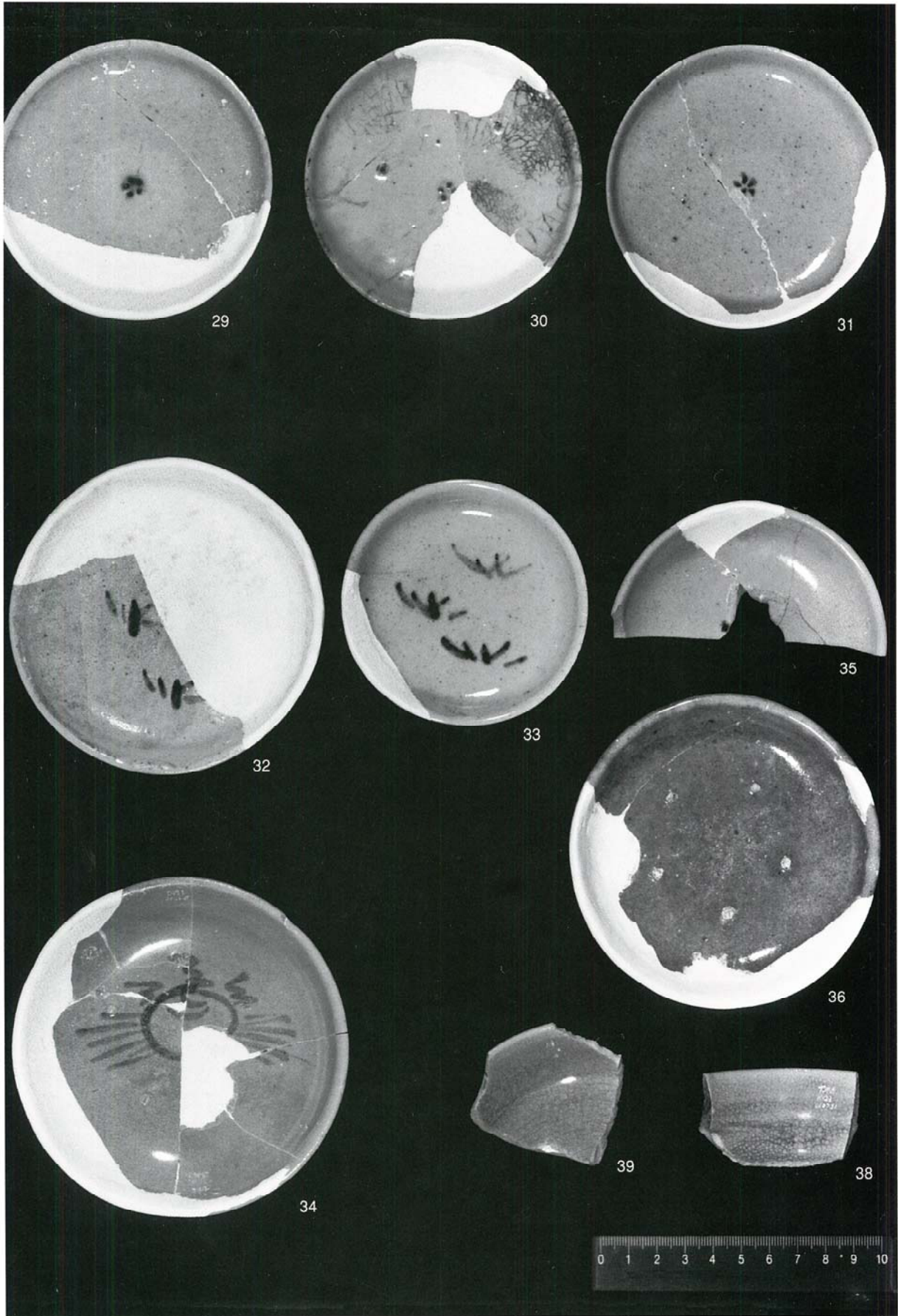


図版十五 大浦B遺跡出土遺物(6)

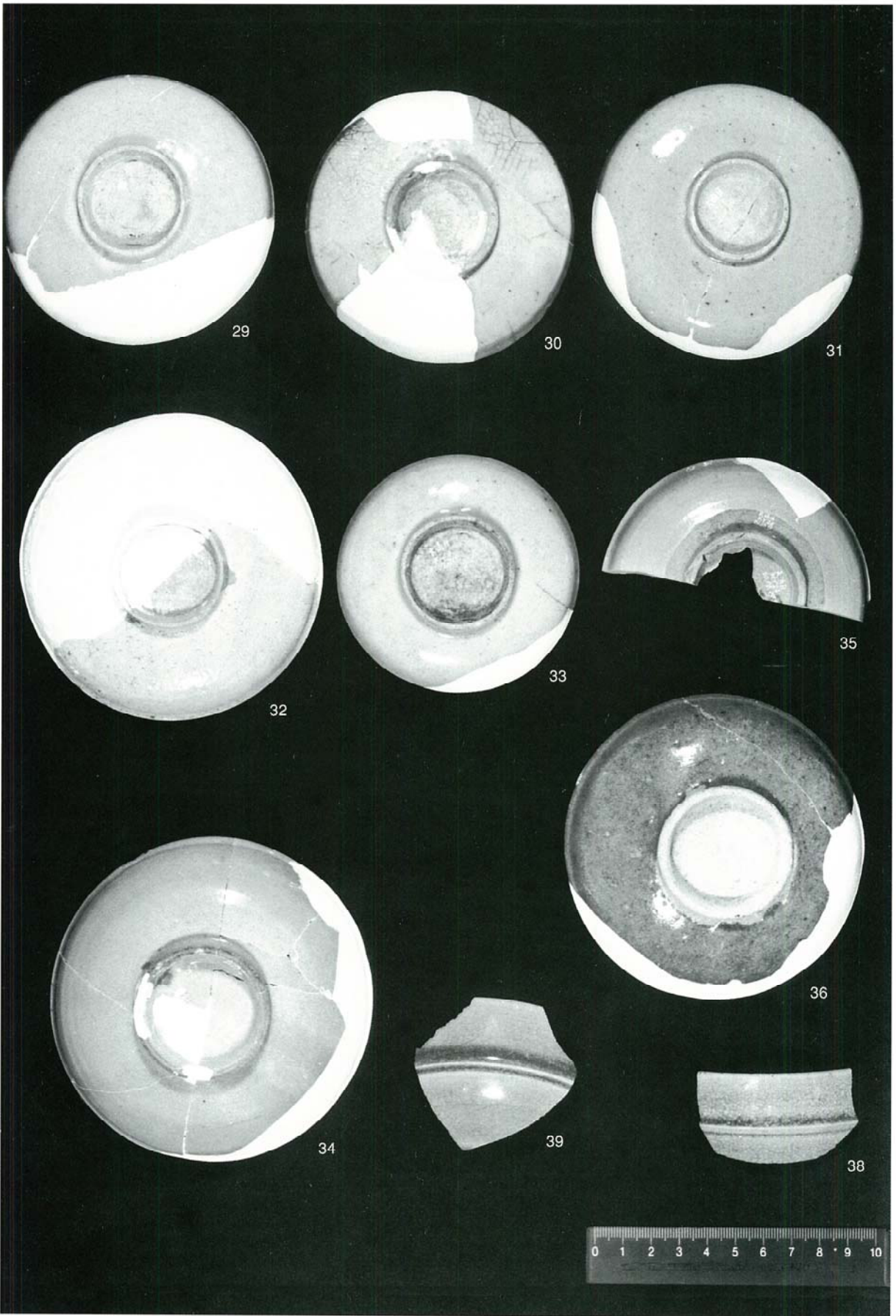


図版十六 大浦B遺跡出土遺物(7)

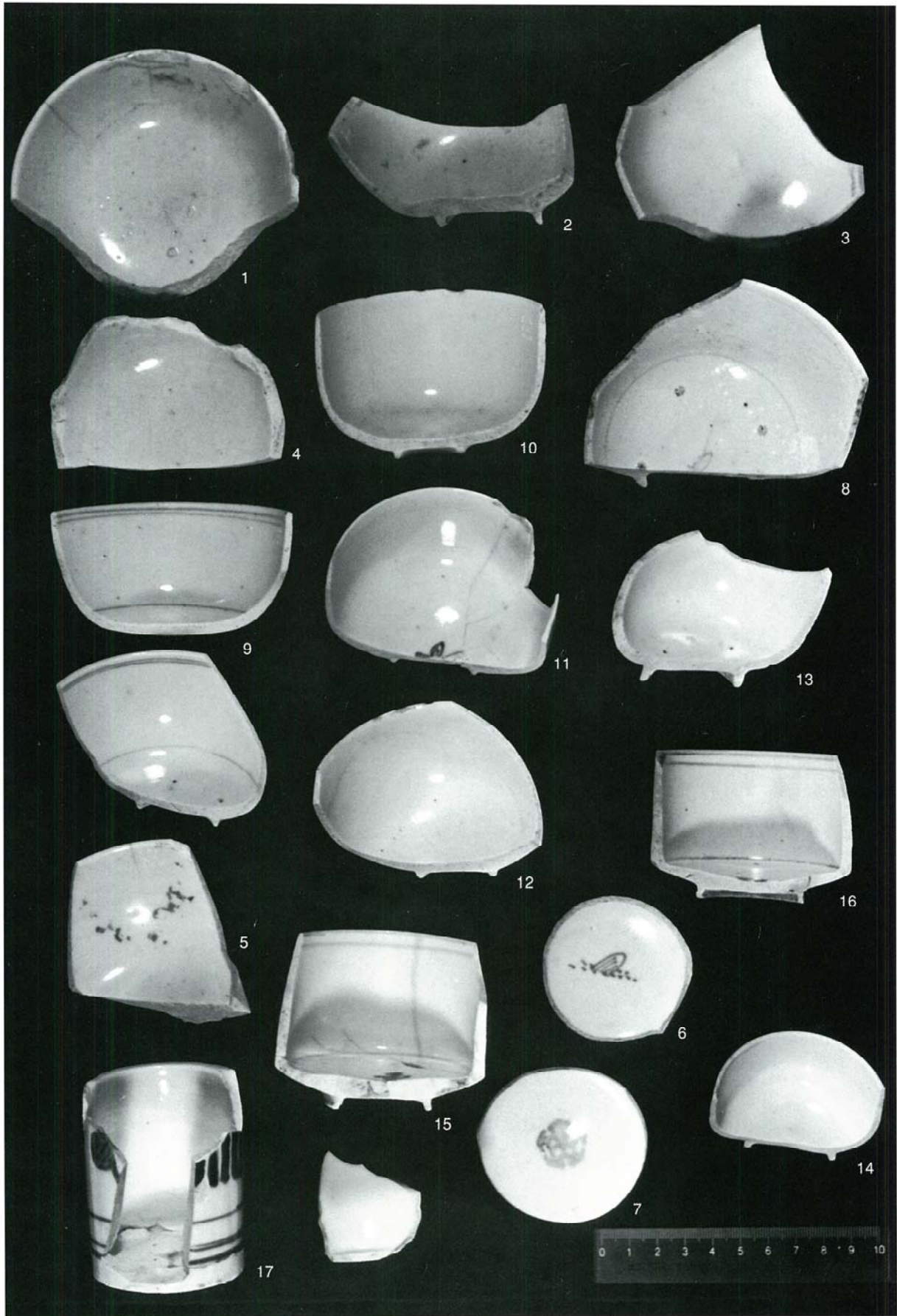




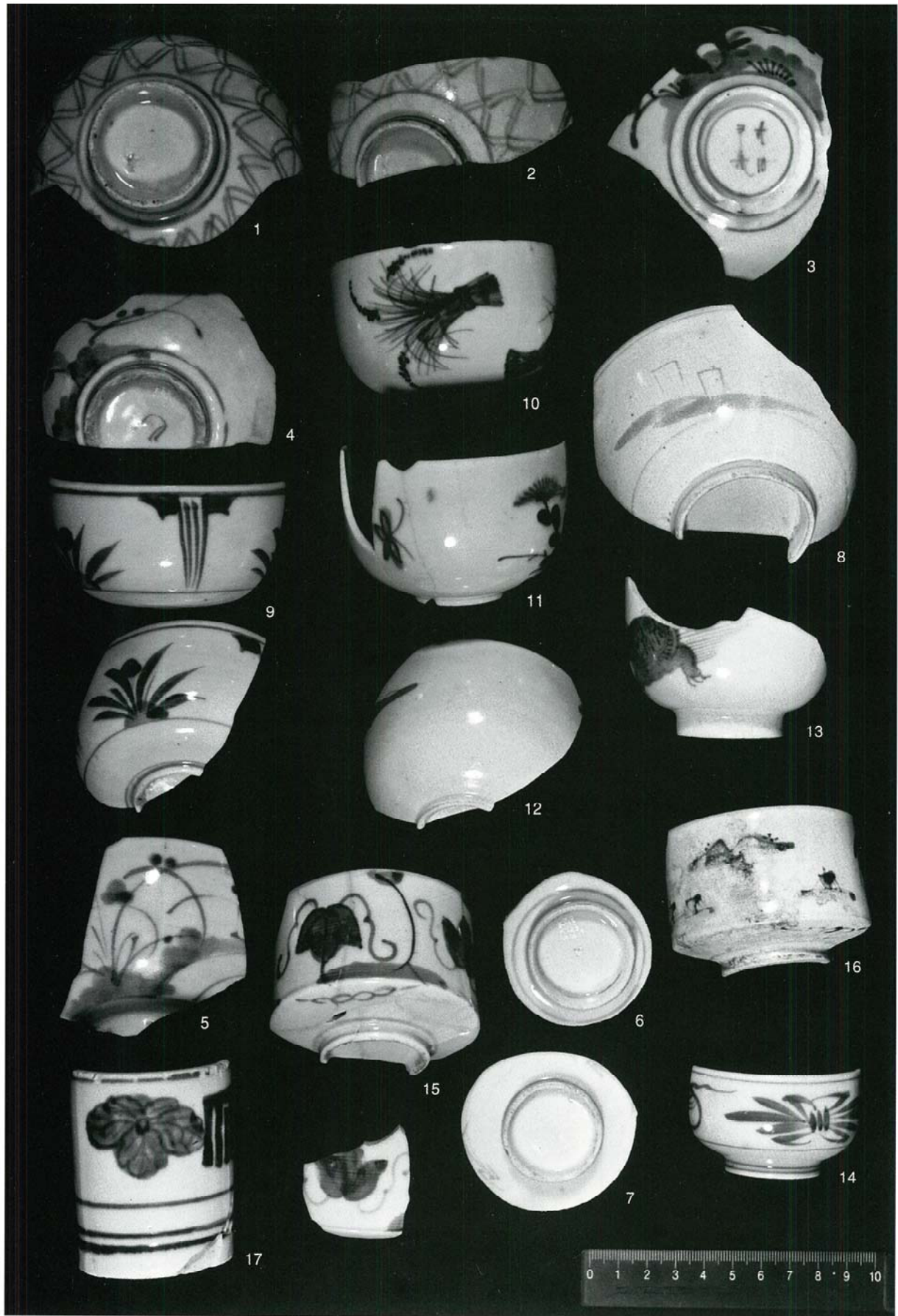
図版十八 大浦B遺跡出土遺物(9)



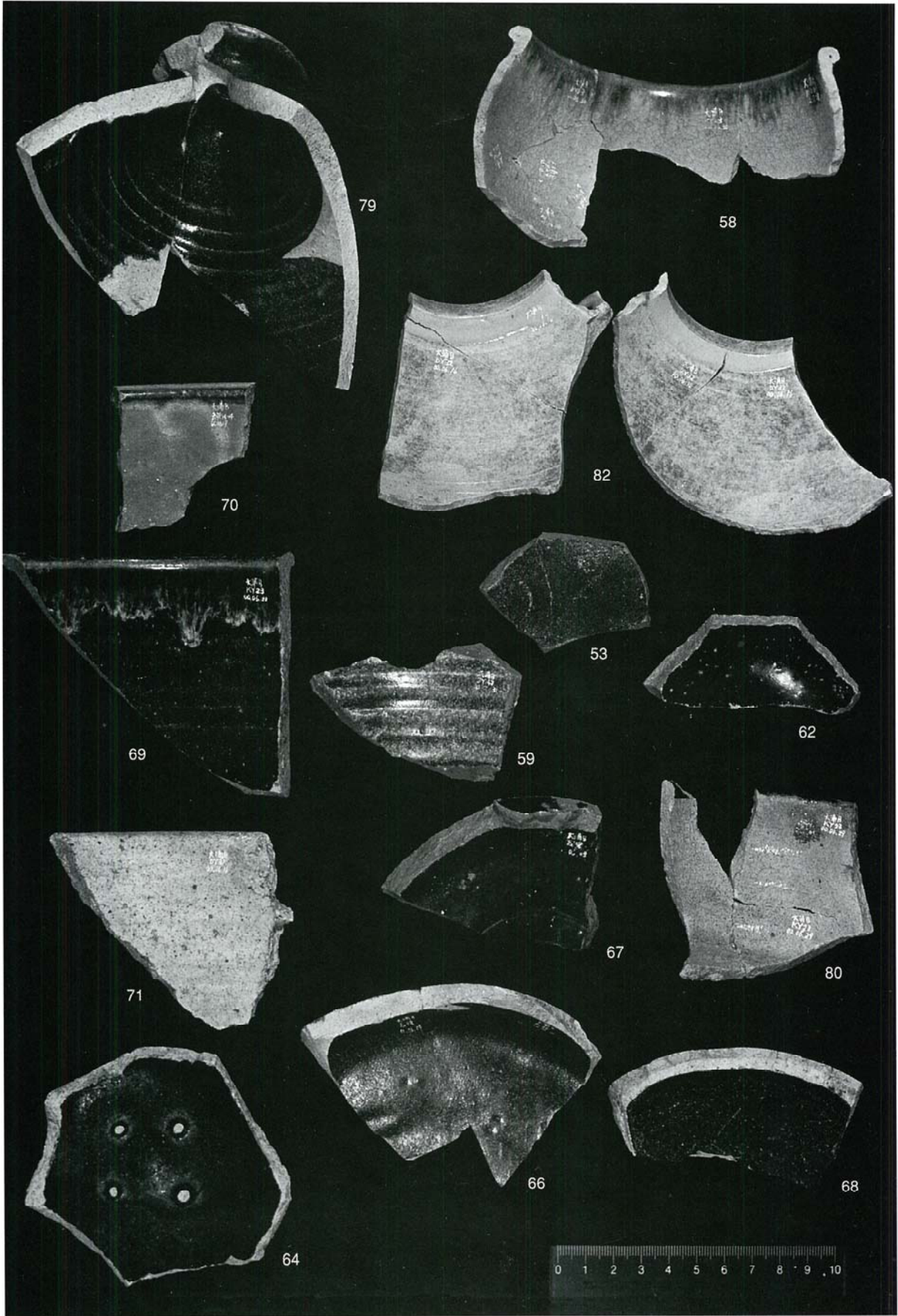
図版十九 大浦B遺跡出土遺物(10)



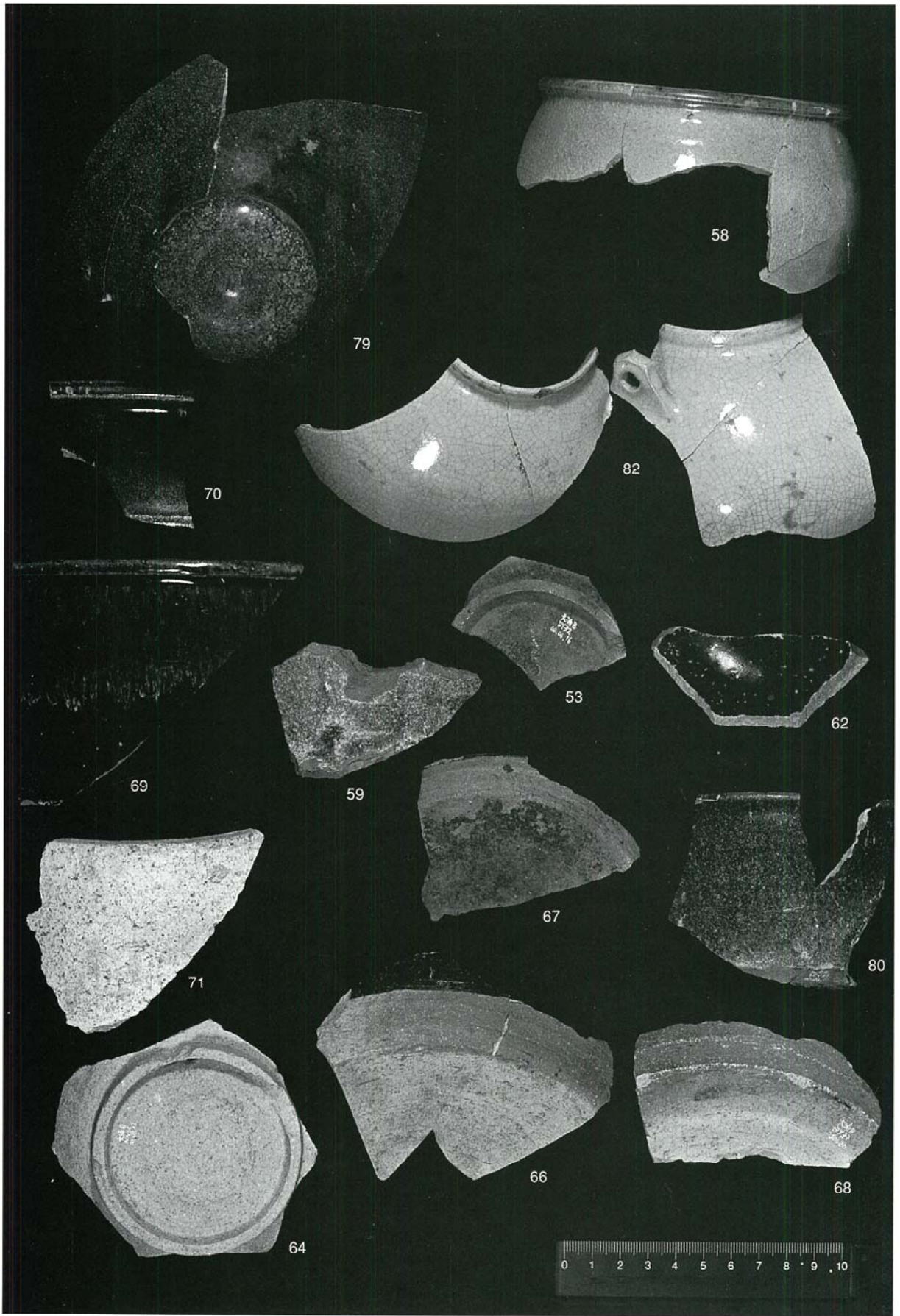
図版二十 大浦B遺跡出土遺物(1)



図版二十一 大浦B遺跡出土遺物(12)

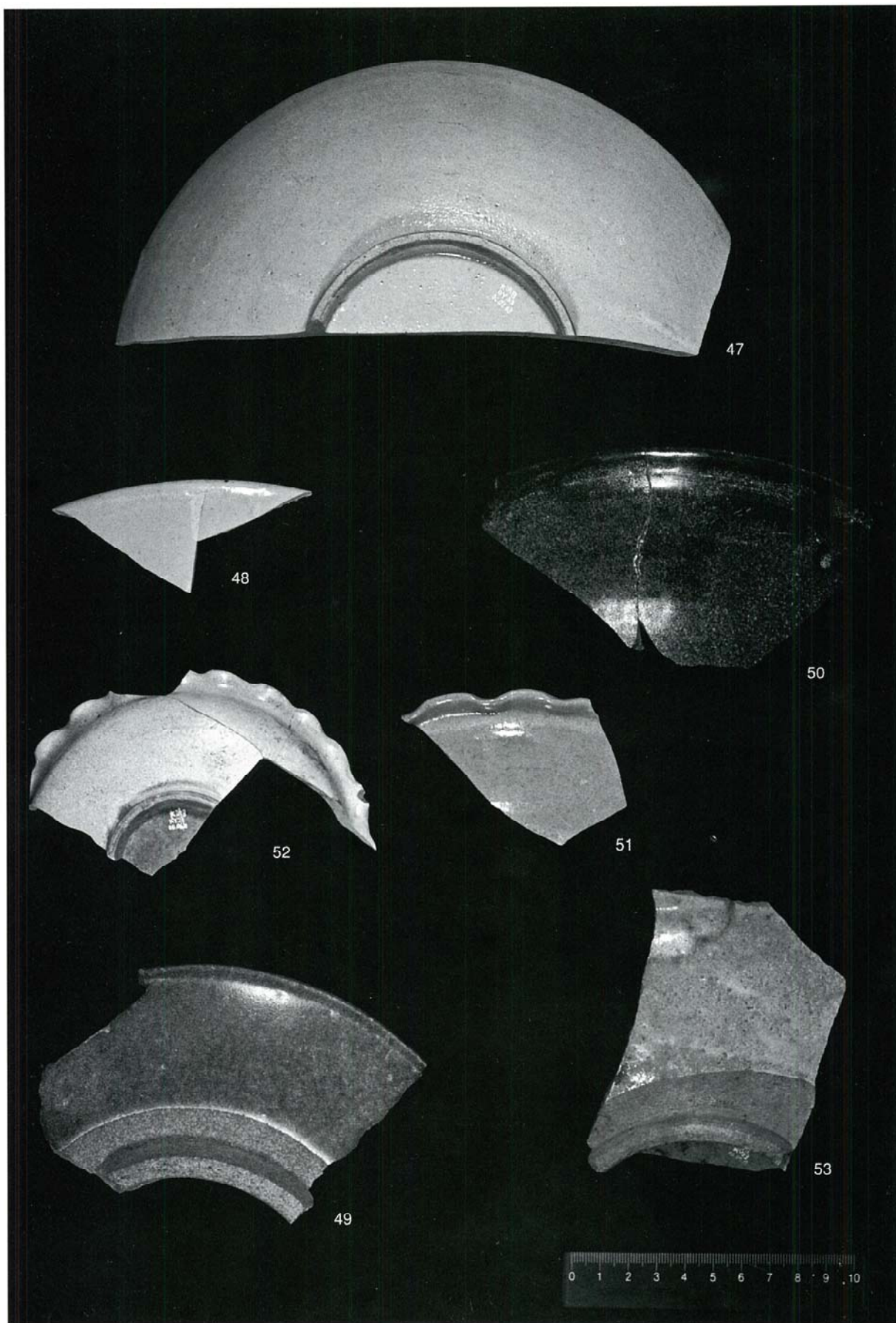


图版二十二 大浦B遺跡出土遺物(13)

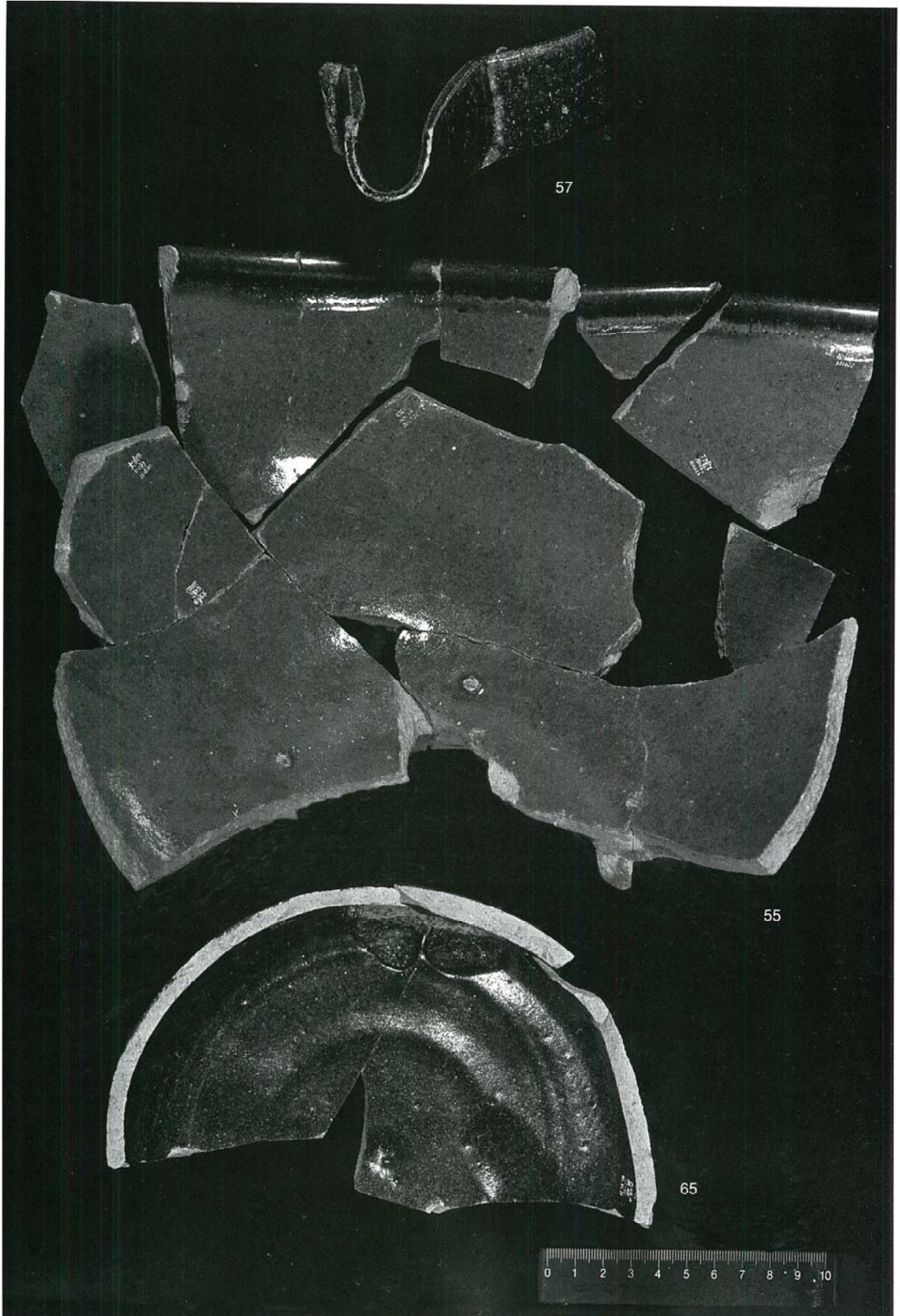




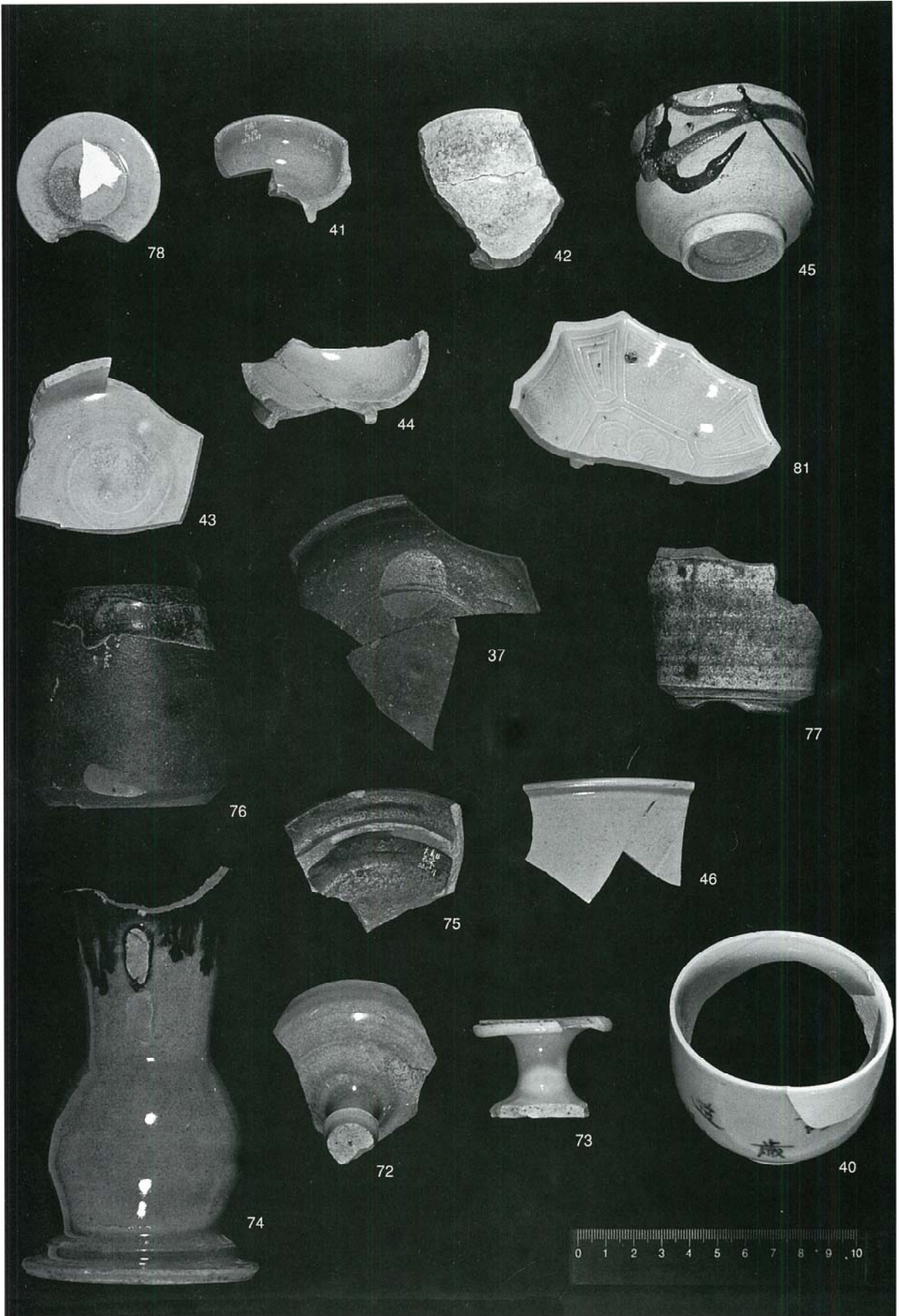
図版二十四 大浦B遺跡出土遺物(15)



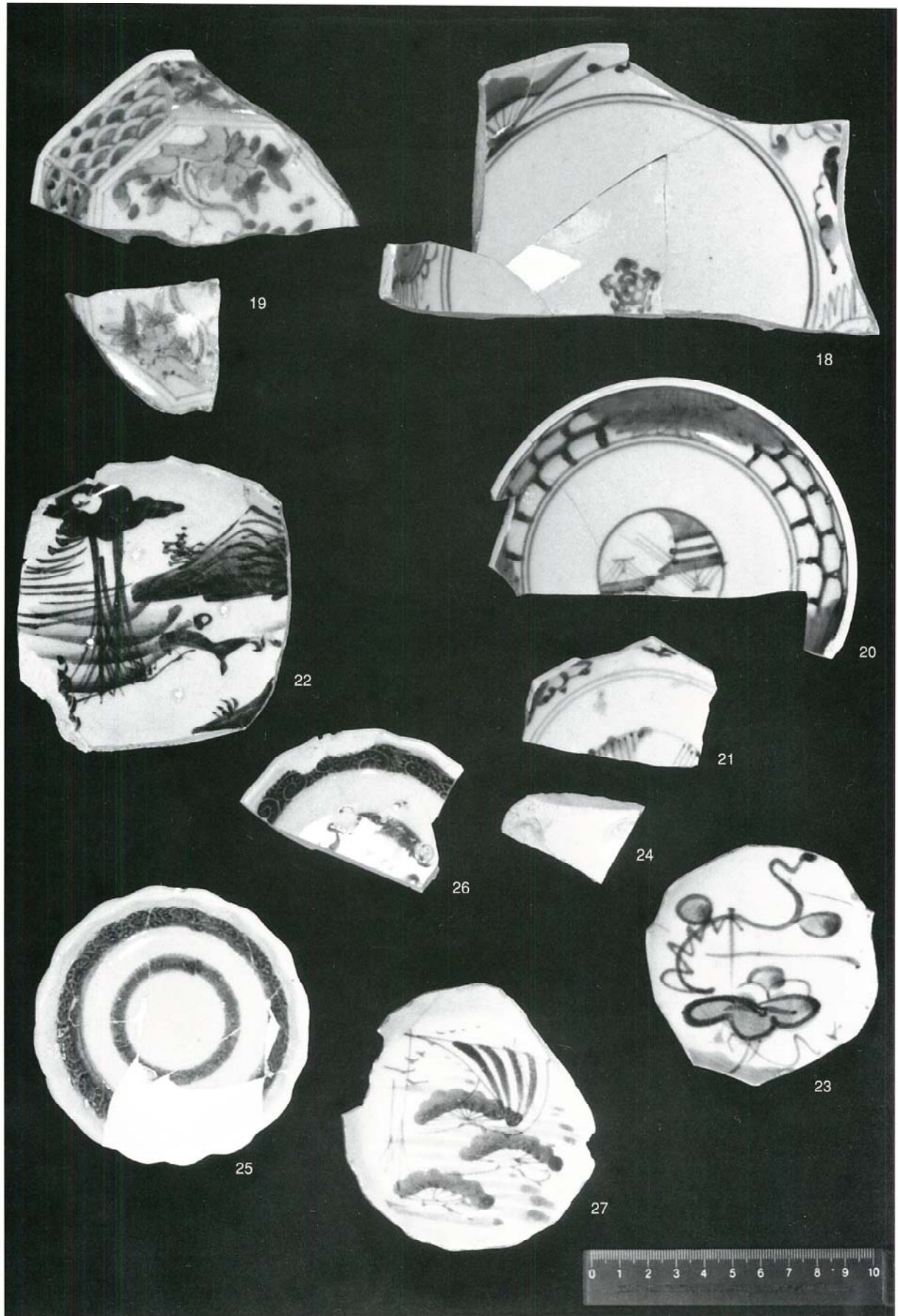
図版二十五 大浦B遺跡出土遺物(16)



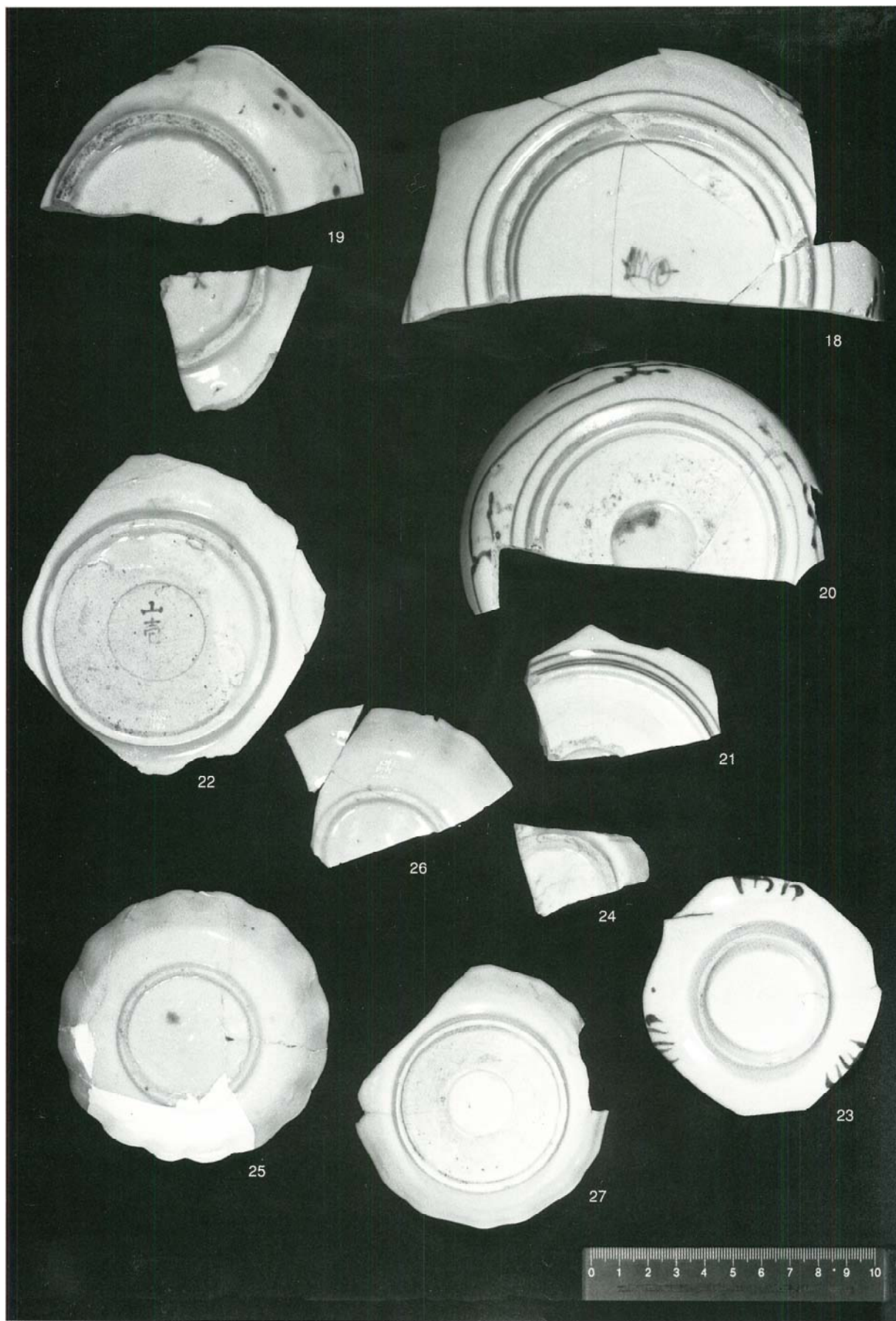
図版二十六 大浦B遺跡出土遺物(17)



図版二十七 大浦B遺跡出土遺物(18)



図版二十八 大浦B遺跡出土遺物(19)



米沢市埋蔵文化財調査報告書第75集
大浦B遺跡発掘調査報告書

平成13年3月28日 印刷
平成13年3月30日 発行

発 行 米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1-55
TEL (0238) 22-5111
(内線7504)

印 刷 (株)芳文社よねざわ印刷
米沢市城西二丁目3-72
TEL (0238) 21-1212(代)
FAX (0238) 22-3565

